

令和6年度実施

令和5年度 教育委員会事務事業点検・評価報告書



令和6年8月

海陽町教育委員会

目 次

1	実施方法	1
	（１）点検及び評価の対象について	1
	（２）点検及び評価の方法	1
	（３）評価結果の取扱いについて	2
	（４）評価スケジュール	2
2	教育委員会の活動状況	3
	（１）教育委員会の組織	3
	（２）教育委員会の会議の開催状況	3
	（３）その他の活動	4
	① 会議・研修会等	4
	② 行事等	4
	③ 学校訪問	4
3	点検及び評価結果	5
	（１）点検及び評価事業一覧	5
	（２）事務事業評価シート	7
4	外部評価委員会の意見	7 5

【資料】

資料1	海陽町教育委員会外部評価委員会設置要綱	8 3
-----	---------------------	-----

はじめに

「地方行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」（昭和31年法律第162号）が、平成19年6月に公布され、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月1日から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされました。

このことから、海陽町教育委員会は、この規定を受け、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施し、報告書をまとめました。

今後とも町教育行政施策の更なる充実に向けた取り組みの推進に努めて参りますので、皆様の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 実施方法

(1) 点検及び評価の対象について

点検及び評価の対象とする事業は、海陽町第3期教育振興計画（令和3年度から令和7年度までの5年間）及び令和5年度海陽町教育基本方針に定める各施策に基づいて実施した68事業を対象として行いました。

(2) 点検及び評価の方法

①一次評価（内部評価）

教育委員会事務局において、令和5年度に取り組んだ68の事業ごとに実績を整理し、一次評価を行いました。一次評価は事業所管係で評価管理シートを用い、事業目的、事業内容、一次評価、今後の取り組みの方向性や今後の方針を記入しました。

成果指標の状況欄の上段には、計画策定時（令和3年度）から計画終了時（令和7年度）までの各年度の目標を数値で記入しています。また、下段には、各年度の実績値を記入します。一次評価は、令和5年度の達成状況を表1の評価基準により行いました。

評価基準（内部評価）

表1

達成度評価	
目標達成率100%超(目標を超えて達成している)	A
目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)	B
目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等、大幅な改善を要する)	C
目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)	D

②二次評価（外部評価）

点検・評価内容の客観性を確保するために教育に関して学識経験者を有する外部評価委員会を（外部評価委員名簿 表2）令和6年7月19日(金)に開催いたしました。

本年度実施の外部評価委員会では、一次評価を実施した68の事業の中から、海陽町教育委員会主要施策等の14事業（表3）を抽出し、一次評価に係る目標に対する進捗状況や事業効果などについて点検・評価するとともに、二次評価及び評価に係る意見をいただきました。また、教育委員会の活動状況についても意見をいただきました。（資料は事前に配付し、効率的な会議運営に努めました。）

外部評価委員名簿

表2

事務点検・評価委員名	役職等
福井 千賀子	元婦人会会長・元保育園長
皆津 隆一	元小学校長

二次評価（外部評価）事業一覧

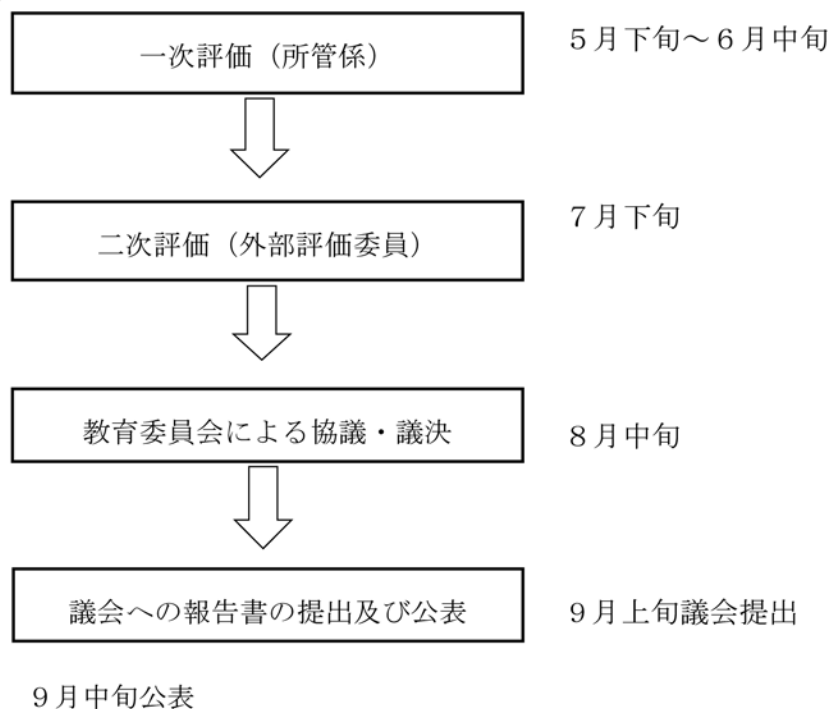
表 3

評価番号	事業名	事業所所管
4	地元高校魅力化推進補助	学校教育
1 1	グローバル教育の推進	学校教育
1 2	I C T教育の推進	学校教育
1 9	放課後子ども教室の運営	学校教育
3 1	公民館活動	生涯教育
3 2	伝統文化継承・地域活性化補助金（新規）	生涯教育
4 0	博物館の運営の充実	生涯教育
4 1	図書館の運営の充実	生涯教育
4 4	防災教育の推進	防災教育
4 7	同和教育の推進	人権教育
5 3	体育協会の助成	文化・スポーツ振興
6 1	特別支援教育の充実（巡回相談員の配置と活用）	教育基盤の整備
6 3	学校規模の適正化	教育基盤の整備
6 7	町奨学金貸与・おかえR e ターン海陽奨学金支援制度	教育基盤の整備

(3) 評価結果の取扱いについて

教育委員会が行う事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてとりまとめ、毎年9月開会の町議会定例会に提出し、公表するとともに、翌年度における施策、事業の改善に役立て、より効果的な教育行政の運営が図られるようにします。

(4) 評価スケジュール



２．海陽町教育委員会の活動状況

（１） 教育委員会の組織

○教育委員会委員の就任状況（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

令和6年3月31日現在

氏 名	役 職	
三 浦 良	教育長	平成30年6月21日 就任 令和 3年6月21日 再任
富 田 充 宏	教育長職務代理者	平成28年5月28日 教育長職務代理者 就任 令和 2年5月28日 再任
ラフォンテーヌ裕子	教育委員	平成27年5月28日 就任 令和 5年5月28日 再任
木 戸 口 貢 淳	教育委員	平成29年5月27日 就任 令和 3年5月27日 再任
西 宮 治	教育委員	平成30年5月27日 就任 令和 4年5月27日 就任

（２） 教育委員会の会議の開催状況等

毎月1回定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催

	開催日	議案	協議事項	報告事項	計
第4回定例会	令和5年 4月19日	3	0	0	3
第5回定例会	令和5年 5月24日	3	1	4	8
第6回定例会	令和5年 6月28日	4	0	3	7
第7回定例会	令和5年 7月26日	5	1	2	8
第8回定例会	令和5年 8月25日	3	1	3	7
第9回定例会	令和5年 9月27日	2	6	2	10
第10回定例会	令和5年10月25日	6	0	2	8
第11回定例会	令和5年11月29日	2	1	6	9
第12回定例会	令和5年12月21日	3	1	4	8
第1回定例会	令和6年 1月17日	5	1	1	7
第2回定例会	令和6年 2月21日	8	3	1	12
第1回臨時会	令和6年 3月 6日	1	0	0	1
第3回定例会	令和6年 3月27日	6	2	3	11
計		51	17	31	99

(3) その他の活動

①会議・研修会等

時 期	名 称	概 要
令和 5 年 4 月	徳島県市町村教育委員会教育行政連絡協議会	令和5年度徳島県教育重点施策について（年1回開催）
	徳島県市町村教育委員会連合会定期総会・研修大会	徳島県市町村教育長会合同理事会を受けた定期総会及び研修大会（年1回開催）
令和 5 年 1 1 月	徳島県・市町村教育委員会教育委員等研修会（オンライン会議）	教育委員会制度の理念や教育及び教育行政に関する理解と見識をより深め、教育を取り巻く諸問題に的確に対応し、教育行政の円滑な推進を図る。

②行事等

時 期	名 称	概 要
令和 5 年 4 月	幼小中学校 入学式	幼稚園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席
令和5年5月～10月	幼小中学校 運動会・体育祭	幼稚園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席
令和 6 年 1 月	令和6年20歳を祝う会	対象者89名のうち参加者68名（出席率76.4%）
令和 6 年 3 月	幼小中学校 卒業式	幼稚園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席

③学校訪問

時 期	名 称	概 要
令和5年7月	町教委学校訪問	幼稚園1園、小学校3校、中学校2校へ3日間訪問

点検及び評価事業一覧

方 針	施 策	評価番号	事 業 名	事業所管係
1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進	1 幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進	1	幼児教育の充実	学校教育
		2	町内園・校長会の開催	
		3	中学校部活動運営(合同体制)の充実	
		④	地元高校魅力化推進補助	
		5	スクールバス運営	
		6	20歳を祝う会	
2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実	1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成	7	学力向上推進	
		8	学校図書館の充実	
		9	キャリア教育の推進	
		10	家庭教育の充実	
	2 グローバル視点の先端教育の推進	⑪	グローバル教育の推進	
		⑫	ICT教育の推進	
		13	子どもあゆみ活用事業	
		14	英語検定補助	
		15	ALT派遣事業	
3 地域と共創する教育力の向上	1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上	16	学校活性化協議会	
		17	コミュニティスクールの充実・推進	
		18	土曜学習の推進	
		⑲	放課後子ども教室の運営	
	2 豊かな心と体の育成	20	インクルーシブル教育の推進	
		21	SC・SSW活用	
		22	人権教育の推進	
		23	食育の推進	
		24	学校給食の充実	
		25	いじめ・不登校防止	
		26	定期補導活動	
		27	青少年健全育成活動の推進	
		28	学校教育における福祉教育の充実	
		29	児童生徒の生活習慣の改善	
4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実	1 生涯学習の振興	30	生涯教育の振興と充実	生涯教育
		③①	公民館活動	
		③②	伝統文化継承・地域活性化等補助金(新規)	
		33	社会教育施設の充実(公民館・体育施設も含む)	
		34	地域づくりに取り組む人財や団体の育成	
		35	グローバルな人財の育成	
		36	地域における福祉教育の充実	
		37	挨拶や声掛けによる教育の充実	
	2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進	38	海陽町文化協会	
		39	文化館の運営の充実	
		④①	博物館の運営の充実	
		④②	図書館の運営の充実	
		42	文化館自主事業	
		43	阿波海南文化村祭	

5 地域ぐるみで生き抜く力をつける	1主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底	④4	防災教育の推進	防災教育
		45	子どもあゆみ活用事業	
		46	東日本大震災の教訓復興教育	
6 人権教育の推進	1人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進	④7	同和教育の推進	人権教育
		48	男女共同参画社会の実現に向けた学習活動への推進	
		49	共生社会の実現に向けた学習活動への支援	
7 文化振興	1文化財に主体的に関わり、身近に感じ、魅力を広げる活動の推進	50	文化財保護・活用	文化・スポーツ振興
		51	地域文化伝承の語る仕組みづくり	
8 スポーツ振興	1生涯スポーツ環境の充実	52	スポーツ少年団助成	
		⑤3	体育協会助成	
		54	新春ふれあい駅伝大会運営	
		55	統合型スポーツクラブ	
9 学校指導体制の充実と指導の質の向上	1新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上	56	教職員の指導体制と学校の支援体制充実	教育基盤の整備
		57	教職員の健康管理と働き方改革の推進	
		58	部活動改革への対応の検討	
		59	ICT教育の指導員の養成	
		60	配慮を要する子どもへの支援体制の充実	
		⑥1	特別支援教育の充実（巡回相談員の配置と活用）	
		62	教育委員会表彰	
	2学校経営の充実	⑥3	学校規模の適正化	
		64	学校施設整備	
		65	衛生環境の向上（洋式トイレの整備）	
	3教育機会の確保	66	就学援助	
		⑥7	町奨学金貸与・おかえReターン海陽奨学金支援制度	
		68	通学補助金交付	

○ は、外部評価対象事業

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	1	
基本方針		1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進						
施策	1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進							
事業名	幼児教育の充実							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	0	R 5	0	所管種別	
事業目的	幼稚園・小学校の連携・接続が推進できるよう、事前打ち合わせや事後反省・また研修会など職員同士が話し合う機会を作る。							
主な事業 内容 (Plan)	○小学校職員と新入学時についての引き継ぎ【4月】 ○年間交流（直接交流・オンラインなど） 通年【 ○アプローチカリキュラムについて共有【8月】							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	幼稚園と小学校との教員間で情報交換や研修会の年間実施回数（回）			2	6	8	10	12
				7	9	9		
成果指標 の達成状況 (Do)	回数は目標数値を超えて行えた。リモートでの交流回数を増やしたので、以前より事前事後の話し合いをすぐに行うことができた。小学校を介して、他就学前施設との交流も増えてよかった。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	「幼保小の架け橋プロジェクト」の実施に伴い、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの見直しを行っていきたい。交流内容も2年生や5年生とも以前のように交流が出来るようにしたい。積極的に出かけていき、直接職員同士も交流や保育内容などを話し合う機会をもち、互いの教育内容に理解を深めていきたい。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	2
基本方針		1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進						
施策	1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進							
事業名	町園・校長会の開催							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	0	R 5	0	所管種別	学校教育
事業目的	教育委員会と学校現場が互いに共通認識・共通理解を図り、より良い学校教育を推進するとともに海陽町の教育の充実を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	<p>町内の園・小中学校及び海部高校の校長が毎月、その時々のも種多様なテーマのもと、情報交換を行い、共通理解を図っている。</p> <p>特に本町の特色として、幼稚園から高校まで、縦の繋がりを重視し、一貫した教育について、伝達事項・確認事項をはじめ、教育課題の解決に向けた話し合いを進めている。</p> <p>また、緊急を要する場合は、臨時の園・校長会を開催し、速やかな対応を行っている。</p>							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	年間実施回数（回）			12	12	12	12	12
				13	12	12		
成果指標 の達成状況 (Do)	<p>・令和 5年 4月12日（6 協議ほか） ・令和 5年 5月17日（8 協議ほか） ・令和 5年 6月30日（9 協議ほか） ・令和 5年 7月18日（5 協議ほか） ・令和 5年 9月26日（5 協議ほか） ・令和 5年10月17日（4 協議ほか） ・令和 5年11月27日（7 協議ほか） ・令和 5年12月19日（6 協議ほか） ・令和 6年 1月29日（7 協議ほか） ・令和 6年 2月15日（4 協議ほか） ・令和 6年 3月 8日（2 協議ほか） ・令和 6年 3月21日（7 協議ほか）</p> <p>※幼小中高の連携が深められ、海陽町の教育目標の具現化とその実践に向け取り組めた。</p>							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○園・学校それぞれの学校運営の円滑な推進のために、幼稚園・小学校・中学校・高校・教育委員会で、毎月園・校長会を開催し、教育委員会、学校間での情報共有など、連携を密にしながらより良い学校教育の推進と海陽町の教育の充実に努める。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	3
基本方針		1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進						
施策	1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進							
事業名	中学校部活動運営（合同体制）の充実							
事業費 (千円)	R 3	2018	R 4	2125	R 5		所管種別	学校教育
事業目的	海陽中・宍喰中の部活動を維持し、町内中学生の部活動選択肢を総合的に広げ、有意義な中学生生活に繋げる。							
主な事業 内容 (Plan)	(1) 部活動バスを活用し、両校の部活動現状体制を維持する。 ①単独・合同チームの送迎（週5日程度）に活用する。 ②土・日・祭日では、他校への合同練習・練習試合等に活用する。 ③宍喰中から海陽中迄の送迎バスを運行する。（週3日-火・水・金） ・往路 宍喰中→海陽中（バレー・サッカー）→牟岐中（体操）11月迄 ・復路 海陽中（バレー・サッカー）→宍喰中 (2) 部活動指導者研修会を開催し、指導者の指導力向上と生徒の体力・スキルアップを図る。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	年間実施回数（回）			200	200	200	200	200
上段が目標値 下段が実績値				318	257	293		
成果指標 の達成状況 (Do)	(1) 部活動バスについては、2校の野球・バレー・サッカー部の拠点校・合同チームを組んだ。拠点校・合同チームの練習・試合等でチームの強化・充実が図られた。また、本事業により、町内部活動体制が維持でき、生徒にとって活発で生き生きとした中学校生活に繋がった。 (2) 送迎バスについては、指定校変更や区域外就学することなく宍喰中学校の生徒維持が保たれた。また、合同練習もスムーズに行われた。 ・体操部一個人で四国出場・全国大会出場する。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・両校合同チームにあたり、十分な練習・試合等ができる協力体制を取る。 ・指導者との密接な連絡調整を行い、生徒のスキルアップやチーム力向上に尽くす。 ・海部高校の部活動活性化に繋げる。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	4
基本方針		1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進						
施策	1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進							
事業名	地元高校魅力化推進補助							
事業費 (千円)	R 3	5,560	R 4	6,953	R 5	13,062	所管種別	学校教育
事業目的	人口減少が急速に進む地域の高校において、地域の新たな活力を創出するため、特色ある教育や学校の活性化を図り、生徒や保護者の関心を惹きつけるとともに、魅力ある教育により子どもへの支援を通して、生徒の維持、高校存続に努める。							
主な事業 内容 (Plan)	海部高校の魅力化や生徒の学力向上を目指して、通信衛星講座・スマホ学習、海外短期留学・英検・英語小中高交流体験、部活動の遠征や強化補助・人材育成PR動画の作成・高校地域説明会の実施。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	県立海部高校への入学者数（人）			100	100	100	100	100
上段が目標値 下段が実績値				109	85	99		
成果指標 の達成状況 (Do)	（令和5年度入学者） 県外・郡外42人 郡内 57人 合計 99人							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	県外郡外の生徒が安心して生活できる受入体制の構築や、まち親の開拓等安定した生徒募集が可能な体制づくりを進めるとともに、引き続き生徒募集拡大のための広報や交通費の助成など、必要な取り組みを検討していく。 令和5年度からは、美波町・牟岐町からも負担金を拠出してもらい、野球部の活性化に取り組んでいる。美波町・牟岐町とも連携についても強化していきたい。				
		継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	5
基本方針		1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進						
施策	1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進							
事業名	スクールバス運営							
事業費 (千円)	R 3	19,215	R 4	19,260	R 5	20,893	所管種別	学校教育
事業目的	園児・児童の登下校や校外活動にスクールバスを運行して、遠距離通学児童の利便性や安心・安全な通学を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・園児・児童の登下校及び校外活動に運行する。 ・「海陽町スクールバス運営委員会」を開催し、スクールバスの運営を円滑に行う。 							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	運営委員会の開催数（回）			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				1	1	1		
成果指標 の達成状況 (Do)	令和5年4月7日 スクールバス運営委員会開催 スクールバスへの置き去り防止安全支援装置を設置							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	老朽化した車両については、計画的な車両更新を行い、安全安心な運行を実施する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	6
基本方針		1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進						
施策	1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進							
事業名	20歳を祝う会							
事業費 (千円)	R 3	658	R 4	178	R 5	2,932	所管種別	学校教育
事業目的	町をあげて人生の節目を祝うことで、ふるさとに誇りを持ち、厳しい時代に打ち勝つ逞しい社会人になるとともに、将来の地域の担い手として大きく前進することを願って実施する。							
主な事業 内容 (Plan)	○8月前半の帰省に合わせ、新成人と打合せ会を行い、記念品の選定・式典当日の役割分担（司会等）について協議を行った。							
成果指標 の状況				R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	出席者の割合（％）			70	80	80	80	90
上段が目標値 下段が実績値				80	66	76		
成果指標 の達成状況 (Do)	○令和6年20歳を祝う会（令和6年1月2日実施）は、対象者89名、参加者68名で、出席率76%であった。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	新成人が企画運営に携わる良い伝統を継承しつつ、今後も思い出の残る良い成人式を新成人とともに考え、運営していく。成年年齢引下げ等の問題については、従来通り、20歳を節目として祝う会（「海陽町二十歳を祝う会」）を実施する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	7
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成							
事業名	学力向上推進							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	0	R 5	0	所管種別	学校教育
事業目的	小学校 ①基礎・基本の定着と児童の思考力を深める授業の実践 ②学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立 中学校 ①基礎・基本の定着を図りつつ、主体的に学ぶ力を伸ばす学習指導の工夫改善 ②学習習慣を定着させるとともに、効果の上がる勉強方法を身につけさせる。							
主な事業 内容 (Plan)	・各教科の学習や特別活動等において目標を設定し、主体的に取り組めるように促す。 ・学習のめあてをはっきりと示し、振り返りの時間をしっかりと位置づけ、個々の学びを共有することにより、次の学習への意欲を高める。 ・子供の関心を生かした魅力ある単元づくりを進める。 ・「なぜ」、「どうして」の疑問が生まれる発問の工夫をする。 ・授業目標の明示や振り返りを行い、基礎的・基本的な知識・技能が身につくようわかりやすい授業を実践する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙において、「授業（小国・算・中国・数）の内容がよく分かる」と答えた児童生徒の肯定的な回答の割合（％）			全国平均回答率以上	全国平均回答率以上	全国平均回答率以上	全国平均回答率以上	全国平均回答率以上
上段が目標値 下段が実績値				中の国以外 は全て全国 以上	小学校は全国 平均以上	中の数以外 は全て全国 以上		
成果指標 の達成状況 (Do)	・小学校は、国・算ともに全国平均回答率より数ポイント高い。中学校は数学が全国平均回答率より数ポイント低い。 ○国語 勉強は好きで、授業の内容もよく分かったと答えた割合は、小中学生ともに全国値と比べて高い。 ○算数・数学 授業の内容はよく分かったと答えた小学生の割合は、全国値と比べて高い。 ○英語 勉強は好きで、授業の内容もよく分かったと答えた中学生の割合は、全国値と比べて高い。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○AI型教材「Qubena」を活用し、個に応じた指導を行う。 ○主体的・対話的で深い学びに繋がる授業改善を生徒に発達段階に応じて積極的に取り入れる。 ○タブレット機器を効果的に活用し、生徒の理解を促進させ思考力や判断力の育成に努める。各教科や朝自習等で学力向上確認プリントを使用して「活用力」を高めていく。 ○数学的な表現を用いて説明する機会を多く持たせるようにする。いろいろな表現方法を学ばせることで、表現力を高めさせる。 基本的な証明問題に取り組ませる中で、図形の性質をしっかりと理解させ、その上でいろいろな結論の証明問題に取り組ませる。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	8
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成							
事業名	学校図書館の充実							
事業費 (千円)	R 3	955	R 4	1,050	R 5	963	所管種別	学校教育
事業目的	各学校の図書充足率向上を目指すとともに、児童・生徒の本に親しむ機会をつくり、学力の向上、調べ学習や読書活動の充実を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	子どもの豊かな読書経験の機会を充実させていくためには、子どもの知的活動を増進し、多様な興味・関心に応える魅力的な図書を整備・充実させていくことが必要であり、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等において多様な教育活動を展開していくためにも、図書の充実を図る。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	学校図書館図書標準の20%増達成率 (%)			100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値				100%	100%	100%		
成果指標 の達成状況 (Do)	令和5年度購入実績 ・海南小学校 84冊 109,700円 ・海部小学校 108冊 199,980円 ・穴喰小学校 119冊 202,172円 ・海陽中学校 142冊 250,000円 ・穴喰中学校 111冊 200,900円							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○PTA等と連携した取組の推進・基本的な生活習慣の定着 ・ノーテレビ・ノーゲームデーの推進 ・親子読書など家庭での読書の習慣付けを図る取組等 ○学校図書館の蔵書の充実を図るとともに、町立図書館との連携を進めることで、これまで以上に児童生徒の読書活動を推進 ○「こどもの読書週間」(子ども読書の日を含む)、「読書週間」に関連した読書啓発の実施				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	9
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成							
事業名	キャリア教育の推進							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	0	R 5	0	所管種別	学校教育
事業目的	地元海陽町の生活を支えている人材との出会いや交流体験、職業に関わる体験などの活動をとおり、自らの生き方や将来の職業生活について考えを深め、社会的、職業的に自立し、社会の中で自分の役割や自分らしい生き方を実現させようという心を育成する。							
主な事業 内容 (Plan)	夢の実現に向けて自己を切り拓く態度や能力を培うキャリア教育を推進する。 児童生徒の発達の段階に応じ、小学校段階から学校の教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育を推進し、一人一人の望ましい勤労観、職業観を育てる教育の充実を図り、中学校職場体験学習プログラムを活用した職場体験を行う中学校を支援する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	キャリアパスポートの作成と学年、校種間 への引き継ぎ率（％）			100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値				100%	100%	100%		
成果指標 の達成状況 (Do)	○キャリア教育全体計画の作成、キャリアパスポートの活用 ○中学校で講師を招き、「就職ガイダンス」（マナーを身につける、「はたらく」を知る、「じぶん」を知る）の出前授業講演を実施した。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○小学校、中学校のキャリア教育を支援するため、児童生徒が自分自身のキャリア発達を継続的に記録、蓄積するキャリア・パスポートについての活用の周知徹底を図る。 ○今後も、産業界や経済団体等から学校に講師派遣を依頼し、学年単位での出前授業や講演を実施する。 ○中学校においては、職場体験やいのちの学習教育等を行うことにより、キャリア教育を推進し、進路意識を高めることができた。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	10	
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実							
施策	1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成								
事業名	家庭教育の充実								
事業費 (千円)	R 3	-	R 4	-	R 5	0	所管種別	学校教育	
事業目的	家庭は全ての教育の出発点という視点にたち、家庭の教育力向上とその充実を図るため、各種情報の提供や相談支援など家庭教育の支援に努める。								
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめての泥染め体験教室」 ・「お料理教室きほんのき（お菓子編ガトーショコラ）」 ・「お料理教室きほんのき（お料理編ちらし寿司）」 								
成果指標 の状況	成 果 指 標 名				R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	家族で参加できるイベント実施回数・世代間交流年間実施回数（回）				1	1	1	2	2
					4	3	3		
成果指標 の達成状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめての泥染め体験教室」参加者15名（親子4組） ・「お料理教室きほんのき（お菓子編ガトーショコラ）」参加者18名（親子3組） ・「お料理教室きほんのき（お料理編ちらし寿司）」参加者16名（親子3組） 								
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価								
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)							
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)							
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	新型コロナウイルスによりイベント開催が難しい部分もあるが、親子で参加出来る教室や体験をコロナ禍でも提供することで、親子のふれあいの時間、子どもの学びの場を作る。					
	○	継 続							
		縮 小							
		見 直 し							
		休 廃 止							

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	11
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	2 グローバル視点の先端教育の推進							
事業名	グローバル教育の推進							
事業費 (千円)	R 3	24, 059	R 4	27, 883	R 5	47, 357	所管種別	学校教育
事業目的	海陽町の児童生徒の「使える英語」の力を伸ばし、グローバル化に対応できる人材を育成する。							
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育に特化した教育プログラムを実施している民間小学校のコンサルティングを導入（研修・視野を広げるための小学生向けイベント・町外生との交流・英語教育アドバイス） ・グローバル事業スタッフの配置（グローバル教育推進員・ALT・CIR・英語推進員） ・学校教育の充実（授業ミーティング・帯活動・オンラインホームワーク） ・学校外活動の展開（放課後教室・動画配信・英語イベント（イングリッシュキャンプ含む）） ・地域/観光への拡充 ・（国際交流イベント・HP整備・英語表記/翻訳サポート・関係機関協力/連携・広報掲載等） ・検定等受験の促進（英検/英検ESG補助・CEFR測定） 							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	中学校3年生で英検3級合格者の割合 (%)			40	65	65	65	65
				46	51	50		
	中学3年生でCEFR (A1以上) 取得割 (%)			40	50	60	65	70
	・CEFR-J (A1-3.1・A1-3.2) の2種類実施 ・2種類を合計した平均で計上			32	35	37		
成果指標 の達成状況 (Do)	グローバル教育の目的を見直し、「英語力」「コミュニケーション力」「文化を超えた思考力」の3目標を再設定。“英語を話す”ためには話せる環境づくりが重要であると学校教職員とグローバルスタッフが共に研修し、授業スタイルとして、オールイングリッシュ・自由な空間づくり、カリキュラムとして、コミュニケーション活動を中心とした内容を展開してきた。イベントとしてはオリンピアの走り方教室や英語が話せる町外生と英語イベントにて交流する機会を設けた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
	○	C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	・明泉学園との業務提携 ・幼児期から高校までのプログラムを計画 ・小学校でのオールイングリッシュ授業の展開 ・小学校での英検受験 ・中学校における課題解決 ・各種関係団体との連携会議の実施 ・児童・生徒が英語・海外文化に触れるための町づくり				
		継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	12	
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	2 グローバル視点の先端教育の推進							
事業名	ICT教育の推進							
事業費 (千円)	R 3	6,319	R 4	2,449	R 5	4,355	所管種別	学校教育
事業目的	I C T環境の整備を進め、子ども達の学力向上やコミュニケーション能力・論理的思考力の育成を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	1. アップルペンの導入 （ノートを取り、友達と意見を交わし、考えを発表する事がしやすくなり、質の高い学習ができるようになった。） 2. AI（人工知能）搭載教育支援ソフト（Qubena）の導入 一人一人の理解の状況に応じて、AIが判断し、児童生徒個々に対応した問題を出題してくれ 全ての児童生徒が個々の力にあった個別最適化の学習を進めた。 3. 臨時休業・家庭への持ち帰りに対応するための取り組みが充実した。 （※ネット環境のない家庭への対応・保険加入含む）							
成果指標 の状況 ※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	AI機器・タブレット・遠隔システム等活用 時間数（時間）			50	60	70		
				70	219	116		
	A I ドリル平均回答数					160	180	200
						116		
成果指標 の達成状況 (Do)	※タブレット活用が有効な教科 国語 算数 生活 理科 社会 外国語 総合等 AIドリル平均回答数 116問							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	今後ICT支援員（デジタル人材派遣制度の活用）を確保し、教職員の利活用に向けての研修を行い、学習効率・スキル向上に努めていきたい。				
		継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	13
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	2 グローバル視点の先端教育の推進							
事業名	子どもあゆみ活用事業							
事業費 (千円)	R 3	2,685	R 4	2,750	R 5	2,928	所管種別	学校教育
事業目的	小学校の英語授業に英語推進員を配置することで、ALTを主とした授業展開を促進する。							
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・小1～小6の英語授業にALT・英語推進員が全て出席できるようにプランを組む。 ・効率的な授業内容とするために毎週あるいは隔週でミーティングを実施する。 ・児童へ入学後スムーズに授業実施ができるよう、就学前において英語あそびを実施する。 ・各種イベントの準備・運営等のサポートを行う。 							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	英語授業等における配置希望 (英語推進員)と達成度(人)			75	75	75	100	100
上段が目標値 下段が実績値				73	70	73		
成果指標 の達成状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の見直しを行った。 ・日雇い講師に入ってもら等、英語推進員の配置は十分でなかった。 (小5・6年生→1名 小3・4年生→1名 小1・2年生/就学前→日雇い講師・補充) ・グローバル教育会議に参加してもらうことで大きい目標を共有できたが、細かい内容等 についての共有は難しい場面もあった。 							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等 大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	<ul style="list-style-type: none"> ・人数の確保と教育の質のバランスを考えながら、 他のグローバルスタッフの状況を確認しながら、 増員も含めて検討する。 				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	14
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	2 グローバル視点の先端教育の推進							
事業名	英語検定補助							
事業費 (千円)	R 3	322	R 4	294	R 5	228	所管種別	学校教育
事業目的	児童生徒の英語力及び学習意欲の向上を図るため、英語検定の補助を行う。 海陽町小中学生の英語力の把握を行い、英語事業を効果的に行う。							
主な事業 内容 (Plan)	公益財団法人 日本英語検定協会が実施する英語検定等を1年度につき1回分につき、 以下のとおり補助する。 ・小学6年生・中学3年生 全額補助 ・中学1年生・中学2年生 半額補助							
成果指標 の状況 ※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	小6年における英検受験率%)					10	15	20
						6		
	中1年における英検受験率%)					15	25	35
						10		
	中2年における英検受験率%)					20	35	50
					20			
成果指標 の達成状況 (Do)	・成果指標の見直しを行った。 ・令和5年度を基準とし、受験率の向上を図っていく。 ・小6(3名)、中1(5名)、中2(9名)が受験。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・各学年とも全額補助とし、受験しやすい環境を整備する。 ・教員の申込時の事務作業を見直し、手続きがスムーズに行えるよう、また、公費の人数の把握がしやすいように変更していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	15
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	2 グローバル視点の先端教育の推進							
事業名	ALT派遣事業							
事業費 (千円)	R 3	10,258	R 4	15,364	R 5	19,528	所管種別	学校教育
事業目的	A L T等を増やし、学校での英語授業や町の英語事業を充実させる。							
主な事業 内容 (Plan)	小・中学校の全ての英語授業にA L Tが参加できるように配置する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	外国人スタッフ（A L T・C I R等） の人数（人）			5	5	6	6	6
上段が目標値 下段が実績値				5	5	5		
成果指標 の達成状況 (Do)	(A L Tの配置) ・海南小学校・海部小学校1名 ・穴喰小学校・穴喰中学校1名 ・海陽中学校1名							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	1校に1名のネイティブ講師を配置できるよう計画していく。				
		継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	16
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上							
事業名	学校活性化協議会							
事業費 (千円)	R 3	292	R 4	248	R 5	292	所管種別	学校教育
事業目的	海陽町教育委員会の権限と責任の下、海陽町内の各学校及び教育全般の諸課題について、学校運営の改善や児童生徒の健全育成及び町全体の教育内容の向上について取り組む。							
主な事業 内容 (Plan)	海陽学校活性化協議会の3つの役割 1. 各小中学校の学校運営協議会の要としての役割 2. 町全体の教育課題の協議する場としての役割 3. 土曜学習のまとめの場としての役割 ○組織は、小中学校長、小中PTA、有識者、町教育委員会等、計18名で構成 ○主な教育議題は、新型コロナウイルス感染症対策を含めた各小中学校の学校経営上の諸課題、海部高校魅力化推進、土曜学習の在り方等について							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	年間会議開催数（回） ・2ヶ月に1回の割合で			5	5	5	5	5
上段が目標値 下段が実績値				2	4	5		
成果指標 の達成状況 (Do)	○年間会議5回（5月・7月・10月・11月・2月）を予定通り開催することができた。 ○各校とも各校運営委員との情報交換を計画的・日常的に行い、学校運営等に生かすことができた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	海陽学校活性化協議会運営の継続・発展及び海陽町の子どもや保護者・地域等の様々な教育課題について幅広く協議する場としての役割を果たしていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	17
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上							
事業名	コミュニティスクールの充実・推進							
事業費 (千円)	R 3	190	R 4	190	R 5	190	所管種別	学校教育
事業目的	保護者や地域住民が学校運営に参画する「学校運営協議会」制度の導入により、地域の力を学校運営及び児童生徒の育成に生かす「地域とともにある学校づくり」を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	各学校・保護者・地域が一体となり、「地域とともにある学校づくり」の教育活動の基盤となる学校運営協議会の開催及び活性化を推進する。 ○各校コミュニティスクール年間計画の作成 ○各校年間3回の学校運営協議会の開催							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	学校運営協議会会議の開催回数（回）			2	2	3	3	3
上段が目標値 下段が実績値				1	2	3		
成果指標 の達成状況 (Do)	○各校コミュニティスクール年間計画を作成し、学校活性化協議会での共通理解を図った。 ○各校計画案通り年3回の学校運営協議会が実施できた。また、学校行事(運動会・文化祭・学習発表会・入学式・卒業式等)ごとに運営委員に案内を出し、意見交換をした。 ○各校とも、学校と保護者・地域と学校運営や子どもの状況に関しての情報交換及び地域教育力を生かした活動が実践できた。 ○学校評価に委員の意見を反映させることで、学校関係者評価が効果的に実践され学校経営改善につながっている。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	各校教育方針に沿った学校教育活動を地域の方々にご理解ご支援をいただきながら、持続可能な範囲で継続・発展させていく。 また、各校学校運営協議会も計画通り開催し、子どもたちのために学校・保護者・地域の信頼関係や協働体制をさらに構築していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	18
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上							
事業名	土曜学習の推進							
事業費 (千円)	R 3	154	R 4	37	R 5	21	所管種別	学校教育
事業目的	学校、家庭、地域社会が連携し、様々な体験活動を行うことにより、「主体性・生きる力」を育成する。							
主な事業 内容 (Plan)	○小中高生を中心に据えた活動を通して、ふるさとを知り誇りを持つ子どもの育成。 ○地域の教育力(地域人材・教育資源等)を生かし、地域に根ざした体験活動や交流活動を行う。 ○子どもたちに関わることにより、地域人材・地域教材等の拡大等、地域活性化を図る。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	体験活動の年間実施回数（回）			5	5	5	5	5
				5	10	10		
成果指標 の達成状況 (Do)	1. 学校と連携した事業 ①防災学習(小5年) ②文化財めぐり(小6年)・・・①②とも、3小学校合同実施した。 2. 地域と一緒に活動した事業 「植物採集教室」「室内ゲーム大会」「星空観察教室」「松の植樹ボラ」「科学体験教室」 また、他団体とのコラボで磯観察、炭窯体験等を実施。グローバルウィークエンドは、ホールイングリッシュで、英語体験活動を実施した。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	新型コロナウイルス感染症は、減少傾向とはいえ予断を許さない状況が続く中、状況を鑑みながら、地域人材・教育資源等を生かし、自然・歴史・防災・科学・グローバル教育等、様々な体験活動を企画し、安全対策をとりながら実施していきたい。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	19
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上							
事業名	放課後子ども教室の運営							
事業費 (千円)	R 3	11,023	R 4	12,523	R 5	15,119	所管種別	学校教育
事業目的	放課後に児童を一時的に預かり、保護者に代わって地域住民である指導員が見守り役をすることで、児童の安全・安心な居場所の提供を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	放課後に指導員のもと、町内の3小学校の児童が各地域で社会教育施設や学校施設などを活用した安全な環境で学習活動、校外活動などに取り組む。 ・対 象 町内に在籍する小学校1～6年生 ・開所日 月曜日～金曜日（土日祝日、学校の長期休みは除く） ・時 間 授業終了後～17時 ・利用料 年間800円（保険代） ・場 所 海南：海南子ども館、海部：奥浦老人福祉センター、穴喰：穴喰小学校							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	3館の登録児童数（人）			200	200	200	200	200
上段が目標値 下段が実績値				215	217	221		
成果指標 の達成状況 (Do)	・3館の登録児童数 221名 ・年間開所日 192日 ・学校や教室と月1回の話し合いの場以外でも、連絡を密に取ることで迅速な対応に努めた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	登録人数からも分かるとおり、放課後子ども教室は日中保護者が働いている家庭などの受け皿として、必要な場所となっている。また児童にとっても他学年との交流の場となっている。 外部指導員を招いての活動も再開する等、引き続き、安心・安全で魅力のある場所として指導員と協議していきたい。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	20
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	インクルーシブ教育の推進							
事業費 (千円)	R 3	2,894	R 4	3,091	R 5	3,307	所管種別	学校教育
事業目的	障がいの有無によらず、児童生徒ができるだけ同じ場で共に学ぶことを目指す。							
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の苦手さに合わせた柔軟な選択ができるよう、通級指導教室を設置する。 将来を見越し、集団の中でもスムーズに活動できるよう、特別支援学級・通級指導教室内で自立活動やソーシャルスキルトレーニングを実施していく。 							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	通級指導教室・連絡会(回)					2	3	3
上段が目標値 下段が実績値						2		
成果指標 の達成状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標の見直しを行った。 穴喰小学校→県より1名配置・海南小学校→町設置・町費教員を1名配置。 8月・3月に連絡会を実施。 県設置に向けての準備を行った。 							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	<ul style="list-style-type: none"> 新設設置に対するアドバイザーの配置 通級指導教室を基盤とした学習支援研修会の開催 海部小への巡回の検討 				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	21
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	SC・SSW活用							
事業費 (千円)	R 3		R 4		R 5	415	所管種別	学校教育
事業目的	いじめや不登校、虐待等、児童生徒や家庭の課題に対して、相談活動を実施したり、支援機関と連携することで、それらを解決・改善することを目的とする。							
主な事業 内容 (Plan)	○スクールカウンセラー 穴喰中学校区（穴喰中学校・穴喰小学校）1名 海陽中学校区（海陽中学校・海南小学校・海部小学校）1名 ○スクールソーシャルワーカー 海陽町内小中学校 1名 ○巡回相談員（公認心理士）1名 上記のように各校に配置し、相談事業を実施する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー 巡回相談員活用校の割合（％）					100	100	100
						100		
成果指標 の達成状況 (Do)	・各校ともスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・巡回相談員の利用があった。 ・相談内容が多様化している中、ソーシャルワーカー活用について、福祉部門により町雇用（週2日）が開始された。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・業務内容やできることについて、特別支援連携協議会等で広報していく。 ・県費・町費のSSW・SCが連携できるよう、会議を開催していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	22
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	人権教育の推進							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	0	R 5	0	所管種別	学校教育
事業目的	人権尊重の精神の寛容を図り、人権が共存する社会を築くため、学校・家庭・関係機関等と連携して、時代の変化に応じた人権教育・啓発活動を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	学校の人権教育を充実させるためには、人権教育で育てたい資質・能力（知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面）を明確にし、各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間、特別活動等との関連を図った教育課程を編成する。そして、目標やねらいが達成できるように、指導内容や学習活動を互いに結び付け、効果を高めることができるように実践していく中で、人権や人権課題についての学習（人権学習）を行い、人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成を図る。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	全国学力・学習状況調査において「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合（％）			74	75	77	78	80
上段が目標値 下段が実績値				83	96.8	97.9		
成果指標 の達成状況 (Do)	全国学力・学習状況調査において「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合。 小学校 97.8% 46人 中学校 97.9% 50人							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も学校の人権教育を充実させるために、学校・家庭・関係機関等と連携して、時代の変化に応じた人権教育・啓発活動を推進していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	23
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	食育の推進							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	0	R 5	0	所管種別	学校教育
事業目的	様々な学習や体験活動を通して、食に関する関心や理解を高め、子どもの健全な食生活の実現と豊かな人間形成を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・「海陽町学校食育推進委員会」を開催する。 ・地場産食材を使用した学校給食の日々の献立を通して、子どもたちの地域の農林水産物や産業への理解を深め、郷土への愛着を深める。 ・食生活アンケートの実施や県食育推進パワーアップ作戦の授業を実施し、食育の推進を図る。 							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	「海陽町食生活アンケート」より朝食を毎日食べる児童生徒の割合（％）			90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%
上段が目標値 下段が実績値				83.8%	81.5%	84.2%		
成果指標 の達成状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・「海陽町学校食育推進委員会」を6/28に開催。 ・海陽の食材を味わう日（毎月19日）に海陽町産食材を使った学校給食献立を実施。広報として「給食だより」を利用し、QRコードを記載するなど、生産者の顔及び食材の情報が見えるように工夫した。 ・食生活アンケートを実施。（7月） ・徳島県学校食育推進パワーアップ作戦で町内の該当学年で同じ学習内容を教諭等と栄養教諭によるTT授業で実施。また、パワーアップ作戦の対象でない学年においても、給食の時間などを活用した栄養教諭による食に関する指導を進めた。 							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	食生活アンケートの結果をふまえて、望ましい食習慣・食生活を見直すとともに、QRコードなど画像を使って地域の産物を理解し、食への感謝の気持ちを育むように引き続き努める。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	24																						
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上																												
施策	2 豊かな心と体の育成																													
事業名	学校給食の充実																													
事業費 (千円)	R 3	68,254	R 4	67,867	R 5	76,829	所管種別	学校教育																						
事業目的	児童生徒が地域への愛着や農業への興味・理解を深め、食に対する正しい考え方を身につけるために、安全・安心な地場産物を活用した給食の提供を推進する。																													
主な事業 内容 (Plan)	安心安全な地場産物を取り入れた魅力のある給食を提供する。																													
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7																						
※各年度の 数値は	学校給食における地場産物活用率（％）			県活用率平均以上	県活用率平均以上	県活用率平均以上	県活用率平均以上	県活用率平均以上																						
上段が目標値 下段が実績値				58.2%	55.4%	56.5%																								
成果指標 の達成状況 (Do)	<p>海陽町の食材を味わう日として毎月19日を「食育の日」としている。</p> <p>●令和5年度学校給食における地場産物・国産食材の使用状況調査結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">県活用率(平均)</th> <th colspan="2">海陽町活用率(平均)</th> <th rowspan="2">(参考) 徳島県食育推進計画(第4次)における目標値 学校給食に地場産物に活用する割合 65% 学校給食に国産食材を活用する割合 85%</th> </tr> <tr> <th>地場産物</th> <th>国産食材</th> <th>地場産物</th> <th>国産食材</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月期</td> <td>63.9%</td> <td>87.9%</td> <td>57.4%</td> <td>90.3%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月期</td> <td>61.8%</td> <td>90.0%</td> <td>55.5%</td> <td>96.1%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									県活用率(平均)		海陽町活用率(平均)		(参考) 徳島県食育推進計画(第4次)における目標値 学校給食に地場産物に活用する割合 65% 学校給食に国産食材を活用する割合 85%	地場産物	国産食材	地場産物	国産食材	6月期	63.9%	87.9%	57.4%	90.3%		11月期	61.8%	90.0%	55.5%	96.1%	
	県活用率(平均)		海陽町活用率(平均)		(参考) 徳島県食育推進計画(第4次)における目標値 学校給食に地場産物に活用する割合 65% 学校給食に国産食材を活用する割合 85%																									
	地場産物	国産食材	地場産物	国産食材																										
6月期	63.9%	87.9%	57.4%	90.3%																										
11月期	61.8%	90.0%	55.5%	96.1%																										
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価																													
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)																												
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)																												
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)																												
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	引き続き調理業務を委託している業者と連携を図りながら、安全安心な給食の提供を行っていきたい。今後も地場産物を積極的に利用し、活用率の向上を目指すよう努める。																										
	○	継 続																												
		縮 小																												
		見 直 し																												
		休 廃 止																												

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	25
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	いじめ・不登校防止							
事業費 (千円)	R 3		R 4		R 5	0	所管種別	学校教育
事業目的	多様化するいじめ・不登校問題についての予防対策を行う。また、問題が発生した場合には解決のための取組を実施する。							
主な事業 内容 (Plan)	不登校対策協議会を立ち上げ、学校・専門職（SC・SSW等）・民間事業所と学校に行きづらい児童生徒についてのサポートを行う。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	不登校対策協議会の開催(回)					0	1	3
						0		
成果指標 の達成状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・ SC・SSW・相談員が定期的・臨時的に相談を実施した。 ・ 令和6年度からの不登校対策協議会の立ち上げを検討。 							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
		D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対策協議会の立ち上げのため、関係機関に参加を求めている。 				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	26
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	定期補導活動							
事業費 (千円)	R 4	0	R 5	0	R 6	0	所管種別	学校教育
事業目的	補導活動を計画的に実践し、学校や関係諸機関との連携を深め、青少年の健全育成と非行防止活動に取り組む。							
主な事業 内容 (Plan)	(1) 地域や関係機関との密接な連携を図り、日常の実践活動に活かす。 (2) 学校行事や地域の行事等に参加し、子どもの実態把握に努める。 (3) 地域の非行防止活動を推進する。 (4) 補導員の資質向上と必要な知識・技能の習得のため、各種大会及び研修会に参加する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	町内補導員の人数（人）			21	21	21	21	21
上段が目標値 下段が実績値				21	21	21		
成果指標 の達成状況 (Do)	①年間活動計画に沿って、補導活動が計画どおり実施できた。 ②補導活動を通じて、地域や児童・生徒の実態を把握し、交流・コミュニケーションを取ることができた。 ③青少年町民育成会議では、各学校と関係機関との連絡調整ができた。 ④地域や各機関等の協力により、地域の安心・安全な町づくりに貢献できた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	(1) 地域や関係機関との連携を図り、地域のために貢献する。 (2) 地域や学校行事等に積極的に参加し、子ども・地域の動向を把握する。 (3) 安心・安全な地域づくりに貢献する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	27
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	青少年健全育成活動の推進							
事業費 (千円)	R 3	230	R 4	51	R 5	57	所管種別	学校教育
事業目的	青少年健全育成の推進のため、地域ぐるみでの健全育成への取り組みを図り、家庭、地域の連携を通じた青少年の健全育成や、様々な奉仕・体験活動を通じた地域健全育成活動を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	○防災学習 8/18（小学校5年生）南部防災館：昭和南海地震・津波の講話、防災実技／津波十訓の碑（浅川漁村センター前）と天神社地震津波記碑の見学 ○文化財めぐり 8/24（小学校6年生）大里八幡神社、大里古墳、波切不動尊、穴喰浦の化石漣痕、穴喰八坂神社 ○文化祭こども俳句作品発表（町文化祭期間中に展示） ○補導員活動（毎月各地区に応じた活動を実施）※海部・海南地区と穴喰地区で各定期補導を実施							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	文化財めぐりと防災学習の実施回数（回）			2	2	2	2	2
上段が目標値 下段が実績値				2	2	2		
成果指標 の達成状況 (Do)	○防災学習（小学校5年生対象）を1セット、上記の各日時に実施した。 ○文化財めぐり（小学校6年生対象）を1セット、上記の各日時に実施した。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	児童・生徒を見守っていってもらえるような効果的な取り組みを行っていきたい。今まで以上に、家庭・学校・地域との連携を図り、《共に育む、豊かな心と生きぬく力》を基本理念に青少年の育成を目指していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	28
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	学校教育における福祉教育の充実							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	0	R 5	0	所管種別	学校教育
事業目的	すべての人がかけがえのない存在として尊ばれ、差別や排除されたりすることなく社会生活の中でともに支えあい、一人ひとりが生きる喜びを感じることができるよう、「ともに生きる力」を育むことを目標とした教育を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校で認知症サポーター養成講座を開催 ・小・中学校で福祉体験学習 (車イス体験・アイマスク体験・介護ロボット体験・手話体験・要約筆記体験) ・世代間交流 ・福祉教育・ボランティア活動連絡会を年1回開催（海陽町社会福祉協議会と学校担当者） 							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	総合的な学習の時間において福祉に関する 学習の回数（回）			1	1	1	2	2
上段が目標値 下段が実績値				1	1	1		
成果指標 の達成状況 (Do)	令和5年度認知症サポーター養成講座実績 ・海南小学校 R6. 2. 7 5年生28名 ・海部小学校 R6. 1. 26 5年生7名 ・穴喰小学校 R5. 7. 14 5年生18名 ・海陽中学校 R5. 11. 10 1年生33名 ・穴喰中学校 R5. 6. 20 1年生17名							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○ともに学び、つながり、生活を見つめる力を育てるために、協働的な学習活動が活発になるよう、ねらいを明確にした教育を推進する。 ○児童・生徒が学校で学んだ知識や技術を進んで社会に提供し、将来にわたって地域福祉を進める主体となっていけるように意識・意欲をめざめさせることをねらいとしている。 ○引き続き小・中学校で認知症サポーター養成講座・福祉体験を開催する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	29
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	2 学校経営の充実							
事業名	児童生徒の生活習慣の改善							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	0	R 5	0	所管種別	学校教育
事業目的	子どもに関する相談について、助言・指導の実施や、学校と行政との連携により相談支援体制を整えることで、児童虐待の発生予防、子どもの最善の利益の保障と、安心安全な暮らしを守る。 また、児童虐待防止に向け、人材育成および支援体制の強化を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	海陽町母子保健連絡協議会を調整機関として、児童生徒の情報の集約、多機関連携のためのネットワークの強化を図る。生活習慣病予備軍の減少。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	養護教諭と保健師の情報交換等の回数 (回)			1回	2回	2回	2回	2回
上段が目標値 下段が実績値				2回	2回	2回		
成果指標 の達成状況 (Do)	○連絡協議会を2回実施 ○子どもの肥満についての勉強会 ○小学5年生中学2年生に心のアンケートを実施							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○小学5・6年生中学校全学年に血液検査を実施し、コレステロール・尿酸・中性脂肪が基準値を超えた児童・生徒保護者に対して、保健師や養護教諭が正しい生活習慣を身につけられるよう指導する。 ○中学校での肥満傾向生徒の個別指導を実施する。また保健師による生活習慣病予防教室を実施する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	30
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	生涯教育の振興と充実							
事業費 (千円)	R 3	1,663	R 4	2,072	R 5	3,688	所管種別	生涯教育
事業目的	子どもや成人、高齢者や障がい者など、地域住民の興味・関心に応じた各種多様な教室の開催や普及啓発を通して、学習・学びの機会を提供し、生涯教育の振興と充実を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	1. 木工体験 2. 藍染体験（4－11月） 3. 染色教室 4. 成人大学 5. ワークショップ 6. 木工（箸作り）体験 7. 茜染体験（12－3月） 8. 泥染め教室 9. お料理教室							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	開講講座数3講座増（回）			8	9	9	9	9
上段が目標値 下段が実績値				8	8	9		
成果指標 の達成状況 (Do)	1. 木工体験100回 2. 藍染体験（4－11月）62回 3. 染色教室10回 4. 成人大学6回 5. ワークショップ89回 6. 木工（箸作り）体験44回 7. 茜染体験（12－3月）48回 8. 泥染め教室1回 9. お料理教室2回							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	引き続き現在の開講数を維持出来るように努める。後継の講師などの確保ができていない部分もあるため、継続するために新たな人材の確保が課題となってくる。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	31
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	公民館活動							
事業費 (千円)	R 3	19,912	R 4	15,865	R 5	44,880	所管種別	生涯教育
事業目的	地域の教育資源を活用し、地域づくりに主体的に参画しようとする人づくりを進めるために、地域拠点である公民館機能の強化、公民館活動の充実を図るための支援を行う。							
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り（四方原公民館・浜崎公民館） ・共楽運動会（宍喰・海部・川東・浅川の4地区が実施で川上は中止） ・交流球技大会（交流グラウンドゴルフ大会） ・左義長（松原公民館） ・公民館大会 							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	行事参加率10%増（%）			3	4	5	7	10
上段が目標値 下段が実績値				0	0	5		
成果指標 の達成状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度から海陽町伝統文化継承・地域活性化等補助金事業がスタートし、年中行事の盆踊りや左義長の分館事業に活用した事例があり、伝統文化継承・地域活性化に取り組んだ。 ・4年振りに共楽運動会を開催したが、コロナ禍による3年間の中断と高齢化の加速により中止となった地区があった。 ・令和4年度に続き、交流球技大会（グラウンドゴルフ大会）を実施した。 ・令和4年度に続き、公民館大会を実施し、4年振りに午後の交流芸能大会が復活した。 							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	公民館機能が発揮され、公民館活動の活性化、発展につながるように支援していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	32
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	伝統文化継承・地域活性化等補助金（新規）							
事業費 （千円）	R 3	—	R 4	—	R 5	1,746	所管種別	生涯教育
事業目的	町民の自主的な地域活動の促進を図るため、伝統文化継承や地域活性化につながる社会教育活動、又は地域的な共同活動（以下「地域活動」）を行う分館に対して、その活動に要する経費の一部を補助する。							
主な事業 内容 （Plan）	【事業区分】 ①伝統文化継承・地域活性化（5分館実施） ・盆踊りや左義長の用具の整備 ・こいのぼりやおひなさまを活用した地域活性化 ②地域的な共同活動（25分館実施） ・環境整備活動 ・避難、炊き出し、避難所運営訓練 ・備蓄倉庫備品購入に併せた防災訓練や保存食の試食体験 ③その他（9分館実施） ・共楽運動会等分館が参加する社会体育の振興、親睦 ・高齢者や子どもなどが集まり易い施設の軽微な環境整備や修繕							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
※各年度の 数値は	実施した分館の率40%⇒60%⇒65% ※全90分館		—	—	40	60	65	
上段が目標値 下段が実績値			—	—	43			
成果指標 の達成状況 （Do）	令和5年度からの新規事業である。補助金交付要綱の告示日が令和5年7月1日で、事業の周知が年度途中になった。そうした状況下で全90分館への事業内容の説明が十分に行き届いていなかった点是否めないが、初年度の目標値は達成した。							
一次評価 （内部） （Check）	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超（目標を超えて達成している）						
		B 目標達成率80%以上～100%（目標を達成、もしくは概ね達成している）						
		C 目標達成率60%以上～80%未満（目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する）						
	D 目標達成率60%未満（目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する）							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 （Action）	それぞれの地域に根差した分館活動の活性化を推進するために、目的に掲げた社会教育活動や共同活動を支援していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	33
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	社会教育施設の充実（公民館・体育施設も含む）							
事業費 (千円)	R 3	56,073	R 4	108,447	R 5	14,875	所管種別	文化・スポーツ振興
事業目的	海南文化村・公民館・体育施設等の町社会教育施設の維持管理や利用促進に努め、地域住民の自主的な社会教育の推進・充実を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	町社会教育の拠点施設である海南文化村を中心に、公民館施設や体育施設などの維持管理や利用促進に努め、住民が社会教育活動へ参加しやすい環境づくり等に取り組む。 阿波海南文化村がDMVの始発駅となるため、各施設において来場者が利用しやすい環境づくりに取り組む。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	社会教育施設の点検回数			1	2	2	2	2
上段が目標値 下段が実績値				1	2	2		
成果指標 の達成状況 (Do)	巡回・点検及び修繕等を行うことにより、各施設（設備）の機能を適正な状態に維持管理し、運転機能の確保を行う。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	社会教育施設の維持管理や利用促進等に努め、地域に根ざした社会教育活動拠点の充実を図る。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

評価番号

34

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	地域づくりに取り組む人材や団体の育成							
事業費 (千円)	R 3	-	R 4	-	R 5	-	所管種別	生涯教育
事業目的	地域住民が主体となって生涯学習を継続的に推進することができるよう、人材や団体の育成に努める。							
主な事業 内容 (Plan)	町または町内団体(公民館・婦人会・文化協会など)による活動・研修							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	生涯学習の充実を図るための人材・団体育成集会（回）			1	1	1	1	1
				3	4	4		
成果指標 の達成状況 (Do)	婦人会による研修会などの実施 4回(運動会・防災学習会・茜染め体験・グラウンドゴルフ大会)							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	地域の担い手が今後減少することを踏まえ、新たな担い手の創出のために育成の場やきっかけの場を町全体で用意していくことが必要となる。また自らが学べる場所の創出も必要となる。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	35
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	グローバルな人材の育成（ALT・CIRの活躍）							
事業費 (千円)	R 3	939	R 4	498	R 5	790	所管種別	生涯教育
事業目的	児童生徒を含めた町民が国際的視野を持つためにイベント等を実施する。							
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流イベント・講座の実施 ・英語や海外文化を学習するためのホームページ・動画作成 ・町の中で英語に触れられるよう英語標記の設置 							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	イベント・講座等の実施回数 (回)			12	12	12	12	12
上段が目標値 下段が実績値				3	19	37		
成果指標 の達成状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・英語イベント（ハロウィン・Global Weekend等）6回／地域イベント（海南病院まつり）1回 ・グローバルカフェ 20回 ・地域活動（いきいきサロン）10回 ・HP(Global Kaiyo)活用 ・翻訳業務…レストランメニュー(のなみ・テイクサンド・はまべ渡船) DMVパンフレット・観光協会HP等 							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントの実施回数とスタッフの負担を考え、無理なく継続できるように調整していく。 ・翻訳事業も増えてきているため、申し込みから締め切りの管理を行っていく。 				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	36
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	地域における福祉教育の充実							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	0	R 5	0	所管種別	生涯教育
事業目的	児童生徒の健全な育成を進めるとともに、地域住民の学びを通じて地域福祉の推進を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター研修 ・思春期講演会 <p>上記 研修会等がスムーズに実施できるよう、教育委員会より支援する。</p>							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	福祉教育の講座やイベントの開催数 (回)			1	1	1	1	1
				5	8	8		
成果指標 の達成状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校において、認知症サポーター研修を実施した。(小3回・中2回) ・保護者向けに実施した生き心地のよい町アンケートの報告会を実施した。(1回) <p>(実施主体：長寿福祉人権課・子どもあゆみ保健課)</p>							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・母子保健連絡会等に参加し、福祉部門と情報共有を行う。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	37
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	挨拶や声掛けによる教育の充実							
事業費 (千円)	R 3	30	R 4	30	R 5	30	所管種別	生涯教育
事業目的	学校教育に対して、住民や保護者が協力したいことと、教職員が地域に求めていることの主な共通点の中に挙げられている「登下校の見守り・声かけ」を推進し、日常生活における底辺からの教育環境の充実を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	○スクールガードリーダー及び学校が年間を通して、挨拶や声掛けによる教育を行っている。 ○海陽町少年を非行から守る母の会も、挨拶や声かけを随時行っている。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	地域におけるあいさつ運動の実施率（％）			100	100	100	100	100
上段が目標値 下段が実績値				100	100	100		
成果指標 の達成状況 (Do)	○スクールガードリーダー及び小学校が一年間、挨拶や声かけを行った。 ○海陽町少年を非行から守る母の会も、挨拶や声かけを随時行った。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	家庭教育で重視していることの最上位に「あいさつや行儀、礼儀作法」が挙げられている。小・中学校の教育に対して協力したいこと、また地域に協力してほしいことにおいて「登下校の見守り・声かけ」が上位に挙げられているように、児童生徒の健全育成に欠かせない挨拶や声かけは、今後とも推進することが必要である。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	38
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進							
事業名	海陽町文化協会							
事業費 (千円)	R 3	271	R 4	409	R 5	771	所管種別	生涯教育
事業目的	本会は、海陽町に所在する芸術文化団体相互の連絡を密にし、芸術文化の高揚に努めるとともに、町民文化の融和と交流を図り、豊かな郷土文化の創造と発展に寄与する。							
主な事業 内容 (Plan)	○海陽町文化協会ギャラリー（作品展示）／場所：工芸館第2工房 5月【文人水墨画】6月【染色】7月【水墨画】8月【書道・俳句】9月【写真】10月【文人水墨画】11月【染色】1月【俳句】2月【写真】 ○海陽町文化協会祭（作品展示）／阿波海南文化村（海南文化館・工芸館・いきいき館）（5/3～5/7） ○海陽町文化協会祭（芸能発表会）／阿波海南文化村（海南文化館ホール）（6/24） ○視察研修旅行／東山魁夷せとうち美術館（香川県坂出市）・女木島（香川県高松市）							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	団体会員ギャラリー作品展示会の開催数 (回)			6	6	6	6	6
上段が目標値 下段が実績値				8	10	8		
成果指標 の達成状況 (Do)	○海陽町文化協会ギャラリー（作品展示）は、基準値を設定した令和元年度当初は1団体当たり、2月毎にローテーションして全6回としたが、本年度は1団体当たり、1月毎にローテーションし、8回実施した。 ○単純に開催数では基準値を上回ったが、実質、開催日数は減少した。※絵画展は高齢化で展示作業が困難な為、中止。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	会員の高齢化が進み、会員内部から事業縮小の意見が出始めている。今後、事業の取捨選択について十分話し合い、本会の目指すべき方向性を共有する必要がある。（例）芸能大会については年間に、会員として出場する文化協会祭以外にも、文化祭、公民館大会にも出場の機会があり、縮小の具体化を検討していきたい。				
		継 続						
		縮 小						
	○	見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	39
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進							
事業名	文化館の運営の充実							
事業費 (千円)	R 3	51,648	R 4	59,583	R 5	65,648	所管種別	生涯教育
事業目的	教育・文化・生涯学習活動の推進を図ると共に、各種イベントなどを企画し文化館の利用促進と町民文化の振興に寄与する。							
主な事業 内容 (Plan)	文化協会祭、文化村まつり、文化祭、成人式、公民館大会、映画上映会、生涯学習講座等、各種イベントを開催し、地域の活性化と共に魅力ある町づくりに寄与する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	年間利用者数（人数）			10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
上段が目標値 下段が実績値				4,482	8,580	11,263		
成果指標 の達成状況 (Do)	各種イベントが順調に開催され、文化館の利用がコロナ前のように活発になって来た事により目標を達成する事が出来た。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	今まで開催してきたイベント等だけで無く、生涯学習の充実や魅力ある講座など新しいものを取り入れる事により、文化館の利用促進につなげ、目標達成、拡充に努める。				
		継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	40	
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実							
施策	2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進								
事業名	博物館の運営の充実								
事業費 (千円)	R 3		R 4		R 5	11314	所管種別	生涯教育	
事業目的	海陽町の文化・歴史、または芸術に興味関心を持っていただくための事業。 海陽町の文化財、他市町村や他県の文化財との比較や関連性を取り上げて企画展を開催する。 他にも、関連イベントやワークショップ、出張講演や講演会等も含める。								
主な事業 内容 (Plan)	○年3回の企画展開催 ○企画展関連イベント（各企画展につき1～3回程度） ○年4回の海部自然・文化セミナー（徳島県立博物館との共催事業） ○年3回の古文書の読み方講座								
成果指標 の状況	成 果 指 標 名				R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	年間イベント開催数				15	15	15	15	15
上段が目標値 下段が実績値					8	11	16		
成果指標 の達成状況 (Do)	年3回の企画展、そして企画展に係るイベントが6回、博物館リニューアルを行った際の記念イベントが1回、講座・セミナーが6回と、回数は目標数に達することができた。中でも学校に赴いて授業でワークショップを行ったが、子どもたちに好評であった。講座・セミナーについても感染症に対する意識の変化等により以前のリピーターも多く戻ってこられた。一方、回数をこなしたものの直接の入館者数アップに繋がっていないと見られるものもあり、実施時期・内容・方法等を見直す必要がある。								
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価								
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)							
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)							
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・企画展を目的とした来館者を増やすことを目標に、企画展内容や実施するイベントについて精査して計画を立てていく。 ・毎年行っている好評なセミナー・講座については引き続いて継続を行う。 ・感染症対策で試みたオンライン配信など、便利なものは引き続き実施していく。					
	○	継 続							
		縮 小							
		見 直 し							
		休 廃 止							

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	41
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	2 3 館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進							
事業名	図書館の運営の充実							
事業費 (千円)	R 3	29,752	R 4	33,074	R 5	51,566	所管種別	生涯教育
事業目的	図書や資料などを収集・整理・保存するとともに、館内展示や各種イベント、移動図書館車の活用など図書に触れる機会を企画・運営することで、地域住民の読書活動や情報提供を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	1. 貸出業務（館内貸出、相互貸借、移動図書館、団体貸出、学校行間貸出） 2. レファレンスサービス 3. 予約・リクエストサービス 4. コピーサービス 5. ホームページ運営 6. ブックスタート事業 7. マガジンリサイクル 8. 特設コーナー設置 9. しゃべらん会読み聞かせ 10. 海部公民館まちライブラリー 11. 阿南図書館電子書籍貸出協力 12. 阿南・那賀・海部定住自立圏事業の促進 13. 学校図書館システム支援 14. おはなし会開催 15. 植物教室開催 16. 名付けの会・工作教室開催 16. 人権学習会開催 17. 絵画等作品展示							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	町民一人における年間平均貸出冊数（冊）			11	11	11	11	11
上段が目標値 下段が実績値				9.6	9.0	8.3		
成果指標 の達成状況 (Do)	・貸出状況 貸出総冊数 69,941冊（4年度 77,393冊） 1人あたり貸出冊数 8.3冊（4年度 9.0冊）							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
	○	C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	貸出総冊数は、減少傾向にある。その要因として、スマホの普及による活字離れや高齢化による利用者の減少が考えられる。今後は拡大読書器や大活字本の購入等、読書バリアフリーの充実に努めるほか、若い世代向けの企画など検討したい。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	42
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進							
事業名	文化館自主事業							
事業費 (千円)	R 3	1,598	R 4	1,650	R 5	2,107	所管種別	生涯教育
事業目的	学校や地域、関係機関と連携を図り、優れた芸術・文化を鑑賞する機会を提供することで、地域住民の自主的な文化・芸術活動の推進を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化村まつり（パルクール、パントマイムなど） ・映画上映会（「ミニオンズ フィーバー」「189」「ある男」） ・児童演劇巡回公演 ・ワンワンとあそぼうショー ・とくしま感動ステージ 							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	自主事業開催数 行事回数2回増（回）			5	5	5	5	5
上段が目標値 下段が実績値				3	4	7		
成果指標 の達成状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化村まつり（パルクール、パントマイムなど）約1000人 ・映画上映会「ミニオンズ フィーバー」約200名「189」約70名「ある男」130人 ・児童演劇巡回公演 約350名 ・ワンワンとあそぼうショー 681名 ・とくしま感動ステージ 217名 							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	新型コロナウイルスにより、やむを得ず中止となるイベントが多くなった。コロナ禍でも可能な内容や手法での実施を考える。 またDMVの始発駅ともなっているため、関係の部署とも連携をしながら何かしらのイベントを行って行きたい。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	43
基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	2 3 館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進							
事業名	阿波海南文化村祭							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	660	R 5	818	所管種別	生涯教育
事業目的	海陽町文化協会祭と合わせて開催し、町の歴史や文化遺産を活用した各種イベントを実施することで、町内外の参加者に郷土の歴史・文化などの普及啓発を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	ゴールデンウィークに子どもを対象としたイベント「文化村まつり（公演、縁日、防災体験、移動図書館など）」を実施する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	来場者数 イベント参加率20%増 (人)			1200	1200	1200	1200	1200
上段が目標値 下段が実績値				20	1000	1000		
成果指標 の達成状況 (Do)	5月3日に映画「ミニオンズ フィーバー」の上映、5月4日にパルクールやパントマイムをメインの出し物とした野外イベントを実施し、約1000人の来場があった。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	新型コロナウイルスが拡大した際に代替手段による開催などの準備を整えておく必要がある。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	44
基本方針		5 地域ぐるみで生き抜く力をつける						
施策	1 主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底							
事業名	防災教育の推進							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	58	R 5	60	所管種別	防災教育
事業目的	学校における防災教育の充実を図り、災害が発生した場合に、自らの身を自らで守れるよう児童生徒の防災力を育む。□							
主な事業 内容 (Plan)	○地震等の災害を防止軽減するための時間帯に応じた具体的な対処行動を避難訓練を通して、児童生徒によく理解させ、しっかり身につけさせる。 ○毎年学校防災管理マニュアルの見直しを図るとともに、年間計画に、防災計画、避難訓練を位置づける。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	学校における防災訓練の年間実施回数 (回)			5	5	5	5	5
				5	6	5		
成果指標 の達成状況 (Do)	・地震・津波・火災発生時の対応訓練の実施 ・水難救助訓練の実施。（人工呼吸・AEDの使い方） ・消火訓練の実施。（消火器の使い方・煙体験） ・町防災避難訓練への参加。（12月実施）							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○徳島県では、令和3年に「学校防災管理マニュアル」を改訂している。町でも各学校において、改訂版の学校防災管理マニュアルに沿って、各学校の学校防災計画の見直しを進めた。 ○災訓練実施にあたり、学校・地域等の実情に応じて、可能な限り地域等と連携した総合的な訓練を行うよう指導していく。 ○自分の命は自分で守れるよう、継続的な防災訓練等を積み重ねていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	45
基本方針		5 地域ぐるみで生き抜く力をつける						
施策	1 主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底							
事業名	子どもあゆみ活用事業							
事業費 (千円)	R 3	220	R 4	200	R 5	250	所管種別	防災教育
事業目的	安心して子どもを生み育てることができる環境づくりの一環として、防災教育に関する事業を実施する。							
主な事業 内容 (Plan)	今後発災が予測される南海トラフでの大地震などに備え、「命を守る」ことを学ぶために学校を中心とした防災教育を行う。 ・防災食の備蓄 ・防災学習（野外体験活動）他							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	町教委主催の防災教育の実施回数（回）			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				1	2	1		
成果指標 の達成状況 (Do)	海陽町防災訓練12月17日（日）に合わせて栄喰小学校防災デーを開催した。登校時を想定し、大津波警報の町内放送で各地区の避難所に避難をした。訓練終了後は、保護者と一緒に出前授業に取り組み、保護者と防災食の実食を行った。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○保護者の参加により、保護者の防災への関心が高まった。また、地域の方々に教わったり、家族で話し合ったりする機会をもつことで、地域全体の安全に対する理解が深まった。 ○ 防災教育は、地域・家庭・学校が一体となって取り組むことに意味があり効果がある。今後も地域や保護者・学校と協力しながら、訓練や研修を実施していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	46
基本方針		5 地域ぐるみで生き抜く力をつける						
施策	1 主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底							
事業名	東日本大震災の教訓復興教育							
事業費 (千円)	R 3	—	R 4	58	R 5	60	所管種別	防災教育
事業目的	東日本大震災では学校の管理下と保護者への引き渡し後などに、多くの園児・児童・生徒が犠牲になった。また、多くの学校避難所が開設され、教職員は子どもたちの安全確保に加えて、避難所の開設と運営、学校再開業務と忙殺された。この震災の教訓を生かして、近い将来発生する巨大災害に備えるため、防災管理マニュアルを作成し、これを継続的に改善することが重要である。							
主な事業 内容 (Plan)	○地震等の災害を防止・軽減するため、時間帯に応じた具体的な対処行動を避難訓練を通して、児童生徒によく理解させ、しっかり身につけさせる。 ○毎年学校防災管理マニュアルの見直しを図るとともに、年間計画に、防災計画、避難訓練を位置づける。 ○東日本大震災から得た教訓を踏まえた教育プログラムの検討。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	各学校における復興教育の実施回数（回）			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				1	2	1		
成果指標 の達成状況 (Do)	・震災の体験や教訓及び専門的知見を踏まえた地震・津波・火災発生時の対応訓練の実施。 ・町防災避難訓練への参加。（12月実施）							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○ 学校・行政機関と連携し避難場所の再確認をする。 ○ 町内小中学校児童・生徒・教職員全員分の防災頭巾・防災ヘルメットを配布する。 ○ 日ごろから家庭や地域社会と密接な連携協力を図りつつ、児童生徒に対する防災教育を推進していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	47
基本方針		6 人権教育の推進						
施策	1 人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進							
事業名	同和教育の推進							
事業費 (千円)	R 3	2,912	R 4	2,726	R 5	2,691	所管種別	人権教育
事業目的	学校・家庭・社会・関係機関等が時代の変化に応じた人権教育・啓発活動を推進することを通して、人権尊重の精神の寛容を図り、人権が共存する社会を築くことをめざす。							
主な事業 内容 (Plan)	学校・家庭・社会・関係機関等と密接な連携を図り、同和問題をはじめと日々の生活の中にある人権問題の解決を目指すとともに、真に人権の確立した社会の構築に努める。 すなわち、地域住民が交流を図ることを通して相互に理解を深め、地域が一体となったコミュニティづくりを進めて行きたい。そのための研修と住民への啓発を怠らず進めて行く。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	分館巡回人権学習会の実施回数（回）			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				0	0	1		
成果指標 の達成状況 (Do)	4年振りに分館巡回学習会が実施できて、30会場で参加者は332名であった。また、職員及び教職員に対する事前研修会も実施できたので、人権の啓発に関しては達成できた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も人権に関する事前研修会及び分館巡回人権学習会を積極的に行っていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	48
基本方針		6 人権教育の推進						
施策	1 人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進							
事業名	男女共同参画社会の実現に向けた学習活動への推進							
事業費 (千円)	R 3	—	R 4	—	R 5	0	所管種別	人権教育
事業目的	男女共同参画社会の実現に向けて、男女・外国人・高齢者・子ども・性的マイノリティ等、様々な人権に関する問題に対し、学校・家庭・地域が一体となって、お互いを認め合い、尊重し合い、大切にされる社会の実現をめざす男女共同社会の構築を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	男女共同参画社会の実現に向けた人権研修会を実施する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	男女共同参画社会実現の人権研修会の実施 回数（回）			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				0	0	1		
成果指標 の達成状況 (Do)	男女共同参画社会実現の人権研修会は実施していないが、本年度は男女がお互いを尊重し合い、職場、学校、家庭、地域などの社会のあらゆる分野で、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮し、喜びや責任を分かち合うことができる社会を目指し、分館巡回人権学習会において住民参加型の研修を実施している。また、事前に職員を対象にした研修を実施し広く学習の機会を増やしている。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も、男女共同参画社会実現の人権研修会を実施していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	49
基本方針		6 人権教育の推進						
施策	1 人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進							
事業名	共生社会の実現に向けた学習活動への支援							
事業費 (千円)	R 3		R 4		R 5		所管種別	人権教育
事業目的	これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障がい者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会の実現に向けて、ノーマライゼーションの考え方を基本に、障がいのある人もない人も互いの助け合いを尊重し合う教育の推進に努める。							
主な事業 内容 (Plan)	共生社会実現に関する人権教育研修会を実施する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	共生社会実現に関する人権教育研修会の実施回数（回）			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				0	0	1		
成果指標 の達成状況 (Do)	共生社会実現に関する人権教育研修会は実施していないが、障害の有無、年齢、性別、国籍、性的指向など、様々な違いを持つ人々が、お互いを尊重し合い、助け合いながら共に生き、誰もが安心して自分らしく生きられる、インクルーシブな社会の実現を目指し、分館巡回人権学習会において住民参加型の研修を実施している。また、事前に職員を対象にした研修を実施し広く学習の機会を増やしている。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も、共生社会実現に関する人権教育研修会を実施していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	50	
基本方針		7 文化振興						
施策	1 文化財に主体的に関わり、身近に感じ、魅力を広げる活動の推進							
事業名	文化財保護・活用							
事業費 (千円)	R 3	15	R 4	12	R 5	10	所管種別	文化・スポーツ振興
事業目的	文化財行政に対し参考となるべき意見を陳述していただくことによって、海陽町内の文化財行政の向上を図る							
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> ・海陽町内にある指定文化財における現状変更についての審議及び情報共有 ・海陽町内の文化財に関する情報共有 ・その他文化財行政に関する調査・審議・情報共有 							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	文化財保護審議会の開催回数（回）			3	3	3	3	3
上段が目標値 下段が実績値				2	3	3		
成果指標 の達成状況 (Do)	定例となっている審議会の開催に加え、石像物等の拓本研修や、文化財の現地研修会などを行うことができた。また、当町の活動ではないが海部郡文化財保護審議会連絡協議会、徳島県市町村文化財保護審議会連絡協議会等でも研修会の再開が行われ、出席が可能な委員の出席等が見られた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を実施した上で会議を実施していく。 ・審議会は文化財に対する審議だけでなく、委員同士や事務局の情報共有などの場としても活用し、文化財の効果的な活用方法について協議するなどしていく。 				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	51	
基本方針		7 文化振興						
施策	1文化財に主体的に関わり、身近に感じ、魅力を広げる活動の推進							
事業名	地域文化伝承の語る仕組みづくり							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	0	R 5	0	所管種別	文化・スポーツ振興
事業目的	海陽町内の地域文化を伝承する会の発足							
主な事業 内容 (Plan)	海陽町内の地域文化を伝承する会の発足に伴う調査研究及び検討							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	地域文化伝承の会の発足			検討	検討	検討	発足	発足
上段が目標値 下段が実績値				検討	検討	検討		
成果指標 の達成状況 (Do)	地域文化に関係する団体の状況等確認し検討をする							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	地域文化に関係する団体の状況等確認し検討をする				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

						評価番号	52	
基本方針		8 スポーツ振興						
施策	1 生涯スポーツ環境の充実							
事業名	スポーツ少年団助成							
事業費 (千円)	R 3	405	R 4	405	R 5	405	所管種別	文化・スポーツ振興
事業目的	スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活発化を図り、青少年にスポーツを振興し、以て青少年の心身に健全な育成を資することを目的とする。							
主な事業 内容 (Plan)	スポーツ少年団への活動費助成（野球、バレー、ミニバスケットボール、卓球等）や年一回、スポーツ少年団フェア（町内一斉奉仕清掃）などの活動をしている。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	スポーツ少年団フェアの実施回数（回）			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				0	1	1		
成果指標 の達成状況 (Do)	スポーツ少年団フェア（町内一斉奉仕清掃）を実施した。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	少子化によりクラブ運営においては厳しい状況が続いている。多くの選手を確保することや、場合によっては複数のクラブと連携して一つのチームを構成することなどが課題となっている。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5度決算）事務事業評価シート

							評価番号	53
基本方針		8 スポーツ振興						
施策	1 生涯スポーツ環境の充実							
事業名	体育協会助成							
事業費 (千円)	R 3	1,510	R 4	1,510	R 5	1,510	所管種別	生涯教育
事業目的	スポーツ振興のため、海陽町体育協会に対し補助金を交付することにより、各種スポーツ大会の開催、町民が生涯にわたりスポーツを行える環境づくりを行うことにより、町民の健康づくりの推進を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していた大会も、今年は徐々に再開することができ、活発な体育協会の活動が戻ってきた。引き続き、各クラブの自主的な運営を促し、主催する大会等のサポートをしていく。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	各種スポーツ大会の開催回数（回）			12	12	12	12	12
上段が目標値 下段が実績値				3	5	10		
成果指標 の達成状況 (Do)	主なスポーツ大会 ・海陽町体協杯バレーボール大会 ・海陽町体育協会グラウンドゴルフ大会（海南・海部・穴喰） ・海陽町体協杯壮年野球大会 ・海陽町体協杯軟式野球一般大会 ・海陽町体協杯フットサル大会 ・海陽町体協杯バトミントン大会							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	クラブの主体性を尊重しながら、各種スポーツ大会の開催回数を増やしていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	54
基本方針		8 スポーツ振興						
施策	1 生涯スポーツ環境の充実							
事業名	新春ふれあい駅伝大会運営							
事業費 (千円)	R 3	540	R 4	540	R 5	540	所管種別	文化・スポーツ振興
事業目的	地域スポーツの振興として、駅伝大会を実施することにより、青少年の体力向上や、町内外を問わず普段交流のない年代が駅伝大会を通じて交流することができる。							
主な事業 内容 (Plan)	毎年1月の第3日曜日に100チームを上限として駅伝大会を実施。二部制で、一部は小学生男女、中高生女子のチームが走る。二部は中高生男子、一般（成人）、オープンチームが走る。また、小学生男子・女子、中高生男子・女子、一般の5部門上位3チームと各区間の区間賞を表彰する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	新春ふれあい駅伝大会の参加チーム数 (チーム)			30	30	30	30	30
上段が目標値 下段が実績値				0	43	51		
成果指標 の達成状況 (Do)	小学生男子8チーム、小学生女子4チーム、中高生女子5チーム、中高生男子13チーム、一般18チーム、オープン3チームの計51チームが参加。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	インフルエンザが流行する時期なので、基本的な感染症対策を講じながら大会を運営していく。 また、多くのチームに参加してもらえよう、大会の周知を行う。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	55
基本方針		8 スポーツ振興						
施策	1 生涯スポーツ環境の充実							
事業名	総合型スポーツクラブ							
事業費 (千円)	R 3	4,000	R 4	4,000	R 5	4,000	所管種別	文化・スポーツ振興
事業目的	地域住民によって組織された自主的な総合型地域スポーツクラブの活動が、より積極的に展開することで、クラブの一層の充実・発展を図るとともに、クラブ活動を通じて生きがいのある生活と活力のある社会づくりを形成することを目的として総合型スポーツクラブの運営に対し、補助金を交付する。							
主な事業 内容 (Plan)	各種スポーツ教室（ボクササイズ、エアロビクス、キッズダンス等）、トレーニングジムの運営、イベント（名所ウォーキング、スポーツレクリエーションフェスタ等）、町からの委託事業（介護予防運動、健康相談・検診後の運動支援等）							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	健康維持や体力づくり教室の実施回数 (回)			300	300	300	300	300
上段が目標値 下段が実績値				457	458	465		
成果指標 の達成状況 (Do)	各種スポーツ教室（ダンススクール・らくらく運動教室・美健康体操教室等）合計19教室							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	各年代に応じた様々なスポーツ教室やスポーツ以外の文化教室を実施しているが、クラブ会員の更なる確保のため、引き続き、広報の充実や魅力的な事業を検討する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	56
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上							
事業名	教職員の指導体制と学校の支援体制充実							
事業費 (千円)	R 3	—	R 4	0	R 5	0	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	学校での会議や研修会のスリム化により、会議や研修会の時間短縮と質の向上を図り、教職員の指導力の向上と長時間勤務の実態を改善する。							
主な事業 内容 (Plan)	資料の事前配布や進行の工夫、会議の統合・廃止、終了時間の厳守、ペーパーレス化を図る。 教職員が担うべき業務に専念できるよう、勤務時間管理の適正化や学校現場における業務改善、校務を情報化することによる効率化等、教職員の働き方改革を進める。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	教職員の経験年数や職務に応じた研修への参加率（％）			10%	10%	20%	20%	30%
上段が目標値 下段が実績値				10%	10%	14%		
成果指標 の達成状況 (Do)	研修の機会を積極的に求めて、主体的に研修に努めた。 総合教育センターの「総合教材ポータルサイト」で、教材やグループ研の成果物などを、研修で活用した。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
	○	C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○ I C Tを活用した教育活動の推進のため、学校において求められる立場、役割、資質・能力に応じた研修の実施等、教員の I C T活用指導力の向上を図る。 ○校務支援システムやタブレットを活用することで、会議をペーパーレス化し、資料の準備時間や紙費用といったコストの大幅な削減と業務効率化を目指す。 ○総合教育センターが月 1 回オンデマンド配信で実施している、「まなびのサポートタイム」を活用し、研修に役立てる。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	57
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上							
事業名	教職員の健康管理と働き方改革の推進							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	0	R 5	0	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	令和元年12月に給特法（公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法）が改正され、同法第7条に基づき定められた国の指針において、教育職員が正規の勤務時間外に在校等をする時間（在校等時間）の上限（原則：月45時間、年360時間）が定められた。							
主な事業 内容 (Plan)	時間外在校等時間の上限方針 原則として次に掲げる範囲内とする。 ① 1箇月について45時間 ② 1年について360時間							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	教職員の超過勤務の時間を1箇月について45時間、1年について360時間以内とする。 (%)			100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値				73%	79.2%	80.2%		
成果指標 の達成状況 (Do)	時間外在校等時間（月当たり平均時間） ・ 4月 小学校50.0 中54.6 ・ 8月 小学校 6.2 中12.8 ・ 12月 小学校34.4 中47.2 ・ 5月 小学校50.3 中56.6 ・ 9月 小学校43.9 中49.1 ・ 1月 小学校33.3 中38.0 ・ 6月 小学校51.8 中50.3 ・ 10月 小学校51.9 中45.9 ・ 2月 小学校38.2 中43.0 ・ 7月 小学校37.3 中46.8 ・ 11月 小学校42.2 中47.6 ・ 3月 小学校37.3 中36.8							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○学校における働き方改革の一環として、夏季の長期休業中に学校閉庁日を設けて、教員が休暇を取得しやすい環境を整えて、教員の心身の健康保持を図る。 ○原則として休日や勤務時間外における電話対応は行わないこととし、留守番機能付き電話により対応する。 ○中学校の部活指導員の配置。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	58
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上							
事業名	部活動改革への対応の検討							
事業費 (千円)	R 3	0	R 4	0	R 5	0	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図ること等を踏まえ、運動部活動の地域への移行を着実に実施するとともに、地域におけるスポーツ環境を整備し、子どもたちがそれぞれに適した環境でスポーツに親しめる社会を構築することを目的として、運動部活動の地域における受け皿の整備方策等について検討する。							
主な事業 内容 (Plan)	休日の部活動の段階的な地域移行を図ること等を踏まえ、学校の状況を鑑みて、関係者や地域と協議を進める。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	土日の部活動の地域移行			検討	検討	移行準備	一部移行	移行
上段が目標値 下段が実績値				検討	検討	検討		
成果指標 の達成状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年 8月 8日 第1回部活動の地域移行推進協議会 新チームからの部活動運営について 令和5年11月 9日 第2回部活動の地域移行推進協議会 郡中体連からの報告及び提案について 令和6年 2月18日 第3回部活動の地域移行推進協議会 中校部活動の実態調査・アンケートについて 							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○地域人材（部活動指導員）の配置 ○生徒の輸送手段の確保（平日・休日） ○教員の働き方改革 引き続き学校の状況を鑑みて、地域移行推進会議にて関係者や地域と協議を進める。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	59
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上							
事業名	ICT教育の指導員の養成							
事業費 (千円)	R 3	495	R 4	495	R 5	495	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	ICTを活用した学習を行うことで、従来の学校教育では実現できなかった広がりを持った教育を実現する。また、教職員への支援としGIGAスクールサポーター及びICT支援員を配置することにより、整備された機器を最大限に活用した授業を展開する。							
主な事業 内容 (Plan)	ICT教育部会の設立 ・各学校情報主任が担当になり、必要に応じて会を開き情報の共有。 （校内UTM 無線LAN整備の検討・アップルペンの購入検討・持ち帰り学習向けての対応等） ICT支援員配置委託（R3～） ・学校におけるICT環境整備の設計、工事・端末等の使用マニュアル・ルールを作成・操作支援、 校務システムの活用支援、メンテナンス支援、研修支援等（1名配置）							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	町内ICT部会の実施回数（回）			5	5	5	5	5
上段が目標値 下段が実績値				4	4	3		
成果指標 の達成状況 (Do)	令和5年度ICT教育部会実績 第1回ICT教育部会 令和5年4月25日 第2回ICT教育部会 令和5年12月20日 第3回ICT教育部会 令和6年3月6日							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	GIGAスクール構想により1人1台のタブレットは整備されたが、今後はタブレットの活用方法や児童の資質・能力を確実に育成できるICT環境を実現するために、支援員等の配置、教職員への研修を実施する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	60	
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上							
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上								
事業名	配慮を要する子どもへの支援体制の充実								
事業費 (千円)	R 3	-	R 4	-	R 5	0	所管種別	教育基盤の整備	
事業目的	学校教育になじめないでいる子どもに対して、I C Tの活用や関係機関の連携を深めることで、教育の質と機会均等を確保する支援体制の充実を図る。								
主な事業 内容 (Plan)	○教室に入りづらい子どもが別教室からオンライン学習をうける。 ○病気等で休んでいる子どもとオンライン学習やタブレットを活用した学習支援を行う。								
成果指標 の状況	成 果 指 標 名				R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	I C Tの活用等による学習支援の実施率 (%)				100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値					40%	100%	100%		
成果指標 の達成状況 (Do)	○学校教育になじめないでいる子どもに対してのI C T活用は、学習の保障と登校へのきっかけとなったが、支援を要する全ての子どもに対応ができなかった。								
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価								
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)							
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)							
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	不登校の児童や生徒へのオンライン授業は子どもの学ぶ権利を保障するツールになることから積極的に進めていきたい。また、病気や病弱の子ども、どうしても感染症が怖い子どもたちの学びをとめないためにもオンライン授業を推進していきたい。					
		継 続							
		縮 小							
		見 直 し							
		休 廃 止							

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	61
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上							
事業名	特別支援教育の充実（巡回相談員の配置と活用）							
事業費 (千円)	R 3	58,059	R 4	51,293	R 5	53,574	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	障がいにより特別な支援を必要とする児童生徒に対して、支援体制の整備促進を行い、将来的に社会に適応し、充実した生活を送ることができる力を育む。							
主な事業 内容 (Plan)	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要な児童生徒の人数を把握し、町費助教員を配置する。 学校等の関係機関に対して研修会を実施し、特別支援教育の理解を促進し、対応を強化する。 							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	町教育支援委員会で決定された 町費助教員と特別支援教育支援員の 配置率（%）			100	100	100	100	100
				100	100	100		
上段が目標値 下段が実績値	教育支援サポートチーム等での 研修会の開催（回）			0	1	1	1	1
				0	1	0		
成果指標 の達成状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> 1対1対応が必要とされた児童14名に対し、学校の状況やニーズに合わせ、14名の町費教員を配置した。 研修会等の機会は組めなかったが保護者対応等についてサポートチーム内で検討することができた。 							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
		D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	<ul style="list-style-type: none"> 教員のニーズを把握し、研修の機会を作っていく。 巡回相談員(心理士)と学校へ回る機会を作り、個人のケースを通して、特別支援教育の理解促進を行っていく。 				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	62
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上							
事業名	教育委員会表彰							
事業費 (千円)	R 3		R 4	91	R 5	108	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	海陽町における文化・体育の振興発展に功労があり、海陽町の名誉を高め、町民に明るい話題を提供するなど、功績のあった者を表彰する。町の学業や文化・スポーツ等の振興に貢献した個人・団体を表彰することで、地域住民のチャレンジ精神や積極的に学習やスポーツに取り組む意欲を高める。							
主な事業 内容 (Plan)	○海陽町文化・体育賞等にふさわしい候補者を事務局の方でリストアップする。（9月末日期限） ○選考委員会に諮り、リストアップした候補者の中から受賞者を決定する。（10月後半頃） ○受賞者の功績を称え、表彰式を挙行し、受賞者に記念品を贈呈する。（とくしま文化推進期間中 [11月3日から11月第3日曜日まで]の時期）							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	文化・体育賞表彰者数（人）			2	2	2	2	2
上段が目標値 下段が実績値				2	4	0		
成果指標 の達成状況 (Do)	○令和5年度海陽町文化・体育賞等選考委員会を10月5日に開催した。委員会において、選考基準が明確ではないとの意見があり、選考基準の見直しを検討したうえで、改めて選考を行うこととなったため、令和5年度は受賞者は0人。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	○	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	選考委員から選考基準に関して曖昧であり、明確化するよう指摘をうけた。令和6年度は選考基準を見直したうえで、候補者をリストアップし、選考委員会に諮りたい。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	63
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	2 学校経営の充実							
事業名	学校規模の適正化							
事業費 (千円)	R 3	615	R 4	1, 979	R 5	2, 708	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	将来に向かって、より良い教育環境を整備するため、小・中学校の適正規模・適正配置等の方針を策定することとし、本町の小・中学校におけるこれからの学校のあり方、考慮すべき事項、具体的な方策等を総合的にご審議いただくための組織として、「海陽町学校あり方検討委員会」を立ち上げ、持続可能な望ましい教育環境のあり方等について検討を開始した。							
主な事業 内容 (Plan)	令和3年12月に海陽町学校のあり方検討委員会を設置し、本町小・中学校の将来を展望した学校のあり方（適正規模・適正配置の具体的方策）について諮問した。あり方検討委員会では、本町小・中学校の現状や児童生徒数の推移、地域と学校の関わりや地域コミュニティの形成など精力的かつ熱心に議論が重ねられた。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	学校規模の適正化の基本方針の策定			検討	検討	検討	策定	—
上段が目標値 下段が実績値				検討	検討	策定		
成果指標 の達成状況 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年 8月31日 第1回学校のあり方検討委員会 計画策定スケジュール・答申について ・令和5年10月31日 第2回海陽町学校のあり方検討委員会 学校再編基本計画（計画素案）について協議 ・令和6年 1月30日 第3回学校のあり方検討委員会 学校再編基本計画（計画素案）について・パブリックコメントの実施について ・令和6年 3月29日 第4回学校のあり方検討委員会 学校再編基本計画（計画素案）について・今後の流れについて 							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○令和6年3月に基本方針及び基本計画を策定した。6年度は保護者や地域住民に説明をしていく。 ○町HPで海陽町再編統合基本計画書の公開や広報誌で特集ページを掲載				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	64
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	2 学校経営の充実							
事業名	学校施設整備							
事業費 (千円)	R 3	19,731	R 4	50,708	R 5	42,209	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	児童生徒の通う学校施設の維持管理及び運営を適切に行い、安全・安心な教育環境を将来に渡って提供する。							
主な事業 内容 (Plan)	学校施設個別計画に基づき修繕及び改修を実施する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	学校施設個別計画に基づく修繕、改修等の 実施箇所（箇所）			2	2	2	2	2
上段が目標値 下段が実績値				2	3	5		
成果指標 の達成状況 (Do)	海南小学校体育館照明器具改修工事 海部小学校体育館照明器具改修工事 穴喰小学校体育館照明器具改修工事 海陽中学校体育館照明器具改修工事 穴喰中学校体育館照明器具改修工事							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も、学校施設個別計画に基づき、修繕及び改修を実施していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	65
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	2 学校経営の充実							
事業名	衛生環境の向上（洋式トイレの整備）							
事業費 (千円)	R 3	15,936	R 4	0	R 5	22040	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	様式トイレの整備を行うことにより、衛生環境の向上を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	各小中学校の和式トイレを洋式トイレに改修する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	学校の洋式トイレの整備率（%）			30%	30%	35%	40%	45%
上段が目標値 下段が実績値				26%	26%	35%		
成果指標 の達成状況 (Do)	穴喰小学校トイレ改修工事							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も、衛生環境向上のため、様式トイレの整備を計画的に実施していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	66
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	3 教育機会の確保							
事業名	就学援助							
事業費 (千円)	R 3	5, 671	R 4	5, 200	R 5	5, 999	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	経済的理由によって就学が困難な家庭に就学援助費を支給することで、すべての児童生徒の学びを保障し、義務教育の円滑な実施を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	町内小・中学校に在籍する児童・生徒の保護者が生活保護をうけている。もしくは世帯全員の収入額が教育委員会の定めた認定基準額を下回る場合対象となる。 認定された保護者に対し、学用品費※、新入学学用品費※、校外活動費、修学旅行費、給食費、学校病医療費、（※が付記された援助費項目以外は実費）を支給する。 当事業は一部が国の補助金対象事業となっている。 新入学児童生徒準備費は入学前支給を行う。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	就学援助費支給率（％）			100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値				100%	100%	100%		
成果指標の 達成状況 (Do)	要保護世帯3世帯6人・準要保護42世帯67人（R6. 3. 31現在） 支給合計 5, 053, 692円 新入学児童生徒準備費 ・小学校新入学 7人 378, 420円 ・中学校新入学 9人 567, 000円 支給合計 945, 420円 ◎支給総合計 5, 999, 112円 国庫支出金（要保護児童生徒費補助金）1/2補助 学用品費等 小学校 31, 000円・中学校 38, 000円 医療費 小学校 0円 ◎補助金合計 69, 000円							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も就学が困難な児童生徒の保護者に対して就学援助費を支給し、経済的支援を行う。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	67
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	3 教育機会の確保							
事業名	町奨学金貸与・おかえReターン海陽奨学金支援制度							
事業費 (千円)	R 3	15,821	R 4	10,196	R 5	10,066	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	1. 経済的理由により修学が困難な者に対して奨学金を貸与する。 2. 返還助成制度により、本町へのUターン及び定住、地元就職の促進を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	1. 町奨学金貸与について ・海陽町奨学金貸与条例に基づき、毎年4月初旬までに申請、4月下旬審査会、5月上旬決定通知、5月中旬誓約書等の提出後、5月末までに1回目の貸与、以後4回に分けて貸与。 2. おかえReターン海陽・奨学金支援制度について ・Uターン就職者の奨学金返還を支援する制度で、4年制大学卒業者の場合、年間最大24万円を最長10年間助成する。対象奨学金は町奨学金、日本学生支援機構奨学金、県社会福祉協議会教育支援資金の3種類。特色としては、海部高校卒業生も対象としている。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	おかえR e ターン海陽奨学金支援制度累計 申請者人数（人）			16	18	20	22	24
上段が目標値 下段が実績値				16	16	14		
成果指標 の達成状況 (Do)	1. 町奨学金貸与について…奨学生審査委員会（4/24）で審査 貸与決定者7名（内訳（大学等1名1年間、2名2年間、1名3年間、3名4年間））・継続貸与者7名（高校等1名・大学等6名） （高校等 月額15,000円・大学等 月額50,000円） 令和5年度貸与額合計 7,380,000円 2. おかえR e ターン海陽奨学金支援制度について…認定者（交付決定者）14名 助成金 2,686,000円							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
	○	C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	1. 奨学金貸与は、広報等で経済的支援である奨学金貸与制度の周知を図る。 2. 奨学金返還支援助成制度は、更に制度の周知徹底を図るため、海部高校のオープンキャンパスや入学説明会等でチラシを配布し事業の周知を行うなど新規申請者の獲得、及び定住・定着に向けて取り組む。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和6年度（令和5年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	68
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	3 教育機会の確保							
事業名	通学補助金交付							
事業費 (千円)	R 3	713	R 4	492	R 5	469	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	遠距離通学に要する費用を援助することで、家庭の経済的負担の軽減と児童生徒の通学時の安全を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	「海陽町遠距離児童、生徒通学費補助金要綱」の規定により補助を行う。 (1) 小学校4km以上の遠距離通学の児童に交通機関の運賃に対して助成金を支払う。 (2) 中学校6km以上の遠距離通学の生徒に交通機関の運賃に対して助成金を支払う。 (3) 上記遠距離通学者で、自転車通学が認められる児童生徒には、自転車購入費に対して助成金を支払う。 (4) 次の〈1〉～〈3〉の全てに該当する者に助成金を支払う。 〈1〉海陽町教育委員会が指定校変更を認めた者 〈2〉校区をまたいでの遠距離者（距離数は従来どおりで交通機関を利用） 〈3〉海陽町教育委員会が助成を適当であると判断した場合							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	小学校4km以上・中学校6km以上の通学費補助率（％）			100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値				100%	100%	100%		
成果指標 の達成状況 (Do)	・海南小学校 自転車購入助成（4km～） 1名 35,400円 ヘルメット購入助成（2～4km） 0円 ・宍喰小学校 バス代助成（回数券・定期券購入） 1名 900円 ・海陽中学校 バス代助成（定期券購入） 川上地区 6名 468,540円 自転車購入助成（6km～） 3名 150,000円 JR助成（定期券購入）（6km～） 0円 ・宍喰中学校 バス代助成（定期券購入） 0円							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○該当者に対し円滑に補助決定を行うことができた。今後も遠距離から通学している児童生徒の保護者の負担軽減のため、現状のまま事業を継続する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

4. 外部評価委員会の意見

(1) はじめに

今年度は、一次評価を実施した68事業（P5～P6参照）の中から抽出した海陽町教育委員会主要施策等の14事業（P2表3参照）について、各事業所管係から事業目的、事業内容、一次評価、今後の取り組みの方向性についてヒアリングを実施し、事業の進捗度と事業実績の一次評価が適切かどうかを検討しました。

評価を行った14の主要事業それぞれについて、二次評価と所見を述べさせていただきます。また、海陽町教育委員会会議の活動状況や海陽町教育委員会の実施する点検及び評価に関しての方法や内容についても、意見(総評)を述べさせていただきます。

(2) 抽出した14事業の二次評価と意見

評価番号 4	事業名 地元高校魅力化推進補助		
二次評価	B	今後の取り組みの方向性	拡 充
<p>県内外からの入学者が増えてきており、地元高校魅力化推進補助事業の効果が出てきており評価できる。今後も海部郡内の子ども数が減少していく中で、海部郡内の中学生はもちろん、郡外や県外の生徒にとっても魅力的で行きたい学校となるような方策もさらに工夫して欲しい。</p> <p>海陽町内の幼・小・中・海部高校と一貫した教育が受けられ、保護者や子どもたちにとって、魅力的な教育環境である。今後さらに幼稚園から高校までの一貫した教育が充実できるような効果的な取り組みを継続していただきたい。</p> <p>老人会での海部高校生によるスマホ教室はとても人気があった。海部高校生が地域に出ることで、地域の方が海部高校の良き理解者となって応援してくれる。「地域とともにある学校」となるよう海部高校と地域の連携・協働が図れる事業も推進して欲しい。</p>			

評価番号 11	事業名 グローバル教育の推進		
二次評価	B	今後の取り組みの方向性	拡 充
<p>「使える英語力」育成のこれまでの成果と課題を踏まえながら、「英語力」、「コミュニケーション力」、「文化を超えた思考力」の3つの目標を再設定し、オールイングリッシュの授業展開や英語が話しやすい自由な空間づくり（小学校各校にイングリッシュルームを設置）、コミュニケーション活動を中心としたカリキュラムの作成、リズムに合わせて繰り返し発話力を育成する英語教材の導入、オリンピックの走り方教室などのイベントの実施等、英語を話せる環境づくりを充実して、「使える英語力」の伸長を図ってきたことは高く評価できる。また、英検の実施やCEFRの活用で客観的に子どもたちの英語力を把握し、今後のグローバル教育推進の指標としている点も評価できる。</p>			

英検の受検料を小学生、中学生共に年1回無料にして受検率を高め、中学校3年生の受検率が100%となるなど、効果がでており、継続して取り組んでいただきたい。

今後も英語の4技能（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）を活用して実際のコミュニケーションを行う言語活動を一層重視し、幼・小・中・高を通じて、授業中でのまちがいを恐れず、積極的に英語を使おうとする態度を育成していただきたい。そのために英語教育に特化した教育プログラムを実施している学校から派遣された教員のノウハウを最大限に活かした施策の積極的な取り組みを継続していただきたい。

評価番号 12	事業名 ICT教育の推進		
二次評価	A	今後の取り組みの方向性	拡 充
<p>ハード・ソフト両面でのICT教育推進のための教育環境が充実しており、AI機器・タブレット・遠隔システム等活用時間数の目標値を大きく上回っている。また、AIドリルも積極的に活用できている。このように、ICT教育を推進することで、学習効率の向上、教員の負担軽減などが図られ、授業がわかりやすく、教職員が子どもに向き合う時間も増えることで、学力向上にもつながっており、高く評価できる。一方、書く力の低下やインターネットにおけるトラブルに巻き込まれる可能性、姿勢や健康について注意が必要があるなどの課題も心配される。また、指導教員のスキルの格差やタブレットに不具合が生じたときの教職員への負担が大きくなることも考えられる。このような課題を解消するため、現在、町に配置されているICT教育支援員の効果的な活用とICT活用能力向上のための教職員への研修や子どもへの情報リテラシーを高める取り組みをさらに進めていただきたい。</p> <p>今後もICT教育の先進地としてハード・ソフト両面でのICT教育環境のさらなる充実を図っていただきたい。</p>			

評価番号 19	事業名 放課後子ども教室の運営		
二次評価	A	今後の取り組みの方向性	継 続
<p>町内3小学校の児童数264人のうち、221人が放課後子ども教室に登録しており、3館の平均登録児童数の割合は84%と多く、成果指標を上回っており二次評価はAである。</p> <p>放課後子ども教室の子どもの自主性を大切にした運営により、子どもたちがのびのびと活動できており、放課後に子どもたちが安全で安心して過ごすことができる拠点（居場所）となっている。</p> <p>異年齢での交流活動や体験活動により、人と関わる喜びやトラブル回避などの子どもの社会性、規範意識、自主性、創造性が育まれたり、道具の整理整頓や清掃などを通し</p>			

て、感謝の心やものを大切にする心が養われるなど、子どもの健やかな育ちにも重要な事業となっている。また、多くの大人の参画を得ることで、子どもたちを地域で見守り育むといった地域の教育力の向上も図れており、評価できる。今後も、安全で安心な子どもたちの第3の居場所となるよう環境整備に努めていただきたい。

評価番号 31	事業名 公民館活動		
二次評価	B	今後の取り組みの方向性	継 続
<p>コロナによる制限もなくなり、4年ぶりの共楽運動会開催や公民館大会での芸能発表など、予定していた事業が実施できたことはよかったが、共楽運動会が実施できなかった地区公民館があったことは残念である。今年度はすべての地区公民館で共楽運動会が実施できるような方策をぜひ考えていただきたい。</p> <p>昨年の担当者とのヒアリングで、それぞれの地区公民館活動を活発化するためには、若者を地域活動に巻き込むことや公民館の行事に多くの人たちを行事に呼び込むための方策を考えて欲しいと意見を述べた。担当者からは、方策を考え、努力しますとの返答であったが、十分な方策が実施されなかつことは残念である。社会教育法第20条に公民館は地域の社会教育施設として地域の実情に応じた多様な学習の機会の提供を行い、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することと目的が明記されている。この目的を達成するために、公民館主事として、参加してみたいような魅力的な行事や参加しやすい開催時間の設定など、町民のニーズに合わせた行事の実施と広報紙や町のホームページ、SNS等による広報で若者層を取り込み、幅広い年代層の公民館活動への参加に努めて欲しい。</p>			

評価番号 32	事業名 伝統文化継承・地域活性化等補助金（新規）		
二次評価	A	今後の取り組みの方向性	継 続
<p>現在、本町でも人口減少や過疎化・少子高齢化が進み、地域コミュニティの衰退と伝統文化の担い手不足という文化資源をめぐる課題がある。その課題解消のために伝統文化継承・地域活性化等補助金を新規事業として実施したことはとても価値のあることである。ただ、補助金交付要綱の整備遅れにより、公民館の各分館への周知が遅れて、補助金を活用した分館が半数以下であったことは残念である。すべての分館で伝統文化継承・地域活性化等補助金が活用できるようあらゆる機会を通して広報するとともに利用申請のDX推進を図り、利用しやすい環境も整えて欲しい。</p> <p>町の伝統ある文化が維持・継承できるよう積極的な事業展開を進めていただきたい。</p>			

評価番号 40	事業名 博物館の運営の充実		
二次評価	A	今後の取り組みの方向性	継続
<p>年3回の企画展の開催とそれに伴う関連イベント、年4回の海部自然・文化セミナーや年3回の古文書の読み方講座などの事業の実施により、年間来館者が3,347人と、成果指標を上回っていることは評価できる。</p> <p>博物館は町の文化遺産である海部刀の魅力をよりたくさんの人に知ってもらうための広報や企画展の開催に努めるとともに町の文化財の掘り起こしをし、文化財の保存・活用にも力を入れて欲しい。また、子どもたちが町の文化遺産の理解が深まるようなワークショップを小中学校に出向いて開催し、次世代への地域文化の継承や担い手の育成につなげて欲しい。</p> <p>これからも、住民のニーズに合った魅力ある博物館運営に努めていただきたい。</p>			

評価番号 41	事業名 図書館の運営の充実		
二次評価	C	今後の取り組みの方向性	見直し
<p>令和5年度の海南図書館・宋喰図書館両館合わせての貸出冊数が約7万冊で、昨年度と比較して2,500冊少なくなっている。町民一人における年間平均貸出冊数も8.3冊で目標値を下回っているが、県下1位を継続していることは素晴らしい。これも図書館システムの改修によるサービスの向上や館内貸出、移動図書館、団体貸出等の貸出業務や予約・リクエストサービス、ホームページ運営やブックスタート事業の開催等、住民の皆さんが図書に触れる機会を工夫・改善して増やしてきたことの成果であり、高く評価する。</p> <p>しかし、毎年、町民一人における年間平均貸出冊数が減少しているので、今後の方針にあるように拡大読書器や大活字本の購入等、読書バリアフリーの充実と若い世代が読書に興味を持つような企画も検討していただきたい。また、しゃべらん会による大人のための読み聞かせが好評である。このような住民のニーズに合った事業は拡充して、読書活動の推進につなげて欲しい。今後も図書館が誰もが集え、行きたいと思える図書館となるような企画や運営の工夫・改善に努めていただきたい。</p>			

評価番号 44	事業名 防災教育の推進		
二次評価	B	今後の取り組みの方向性	継続
<p>学校は、地震・津波による直接の被害の他にも、大雨等によって洪水や浸水、土砂崩れの被害が生じる恐れもある。このような災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下、自らの安全を確保するための行動が</p>			

できるようにすることが重要である。また、災害発生時や災害後に、進んで人々の集団や地域の安全に役立つことができるようにすることも重要である。そのために学校が保護者や地域を巻き込んだ防災訓練の実施や、小中学校で連携した防災教育の実施を行っており、子どもだけでなく、保護者や地域住民の防災に対する意識の向上が見られ、評価できる。定期的に災害時の備蓄品の確認、防災ハザードマップを活用して通学路の状況点検も忘れずにやっていただきたい。

東北大震災等の復興は進んでいるが、人々の記憶が薄れているようにも感じる。震災を知らない世代も増えている。大きな災害があったことを伝え、二度と同じ悲劇が繰り返されないよう、防災教育のさらなる充実を図っていただきたい。地震に伴って大規模な斜面崩壊が生じる可能性もあり、学校の立地場所、通学路の状況を把握しておくことが必要である。

評価番号 47	事業名 同和教育の推進		
二次評価	B	今後の取り組みの方向性	継 続
<p>4年ぶりに「高齢者の人権」をテーマに町内30会場で分館巡回人権学習会を実施し、住民の人権意識を高める取り組みができたことは評価できる。分館巡回人権学習会を実施している市町村は多くないと思われるので、人権教育・人権啓発の推進のため、分館巡回人権学習会を継続していただきたい。より多くの住民の皆さんが参加できるように周知方法の工夫や開催時間についても一考していただきたい。</p> <p>今後も、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決を目指し、一人一人の人権が尊重される明るい社会を築くために、人権教育協議会等の活動をさらに活発にし、くらしと地域に根ざし地域ぐるみの人権教育を一層推進していただきたい。</p>			

評価番号 53	事業名 体育協会助成		
二次評価	B	今後の取り組みの方向性	継 続
<p>コロナによる制限もなくなり、体育協会が計画していた各種スポーツ大会が実施できたことはよかった。</p> <p>町民の健康維持・体力増進を目的としたスポーツ活動を推進するためには、それぞれの世代の体力・関心に合ったスポーツの種目が準備されていることが必要である一方、子どもから高齢者までが一緒にスポーツができる種目の開発も必要である。</p> <p>今後も、スポーツ活動を推進するために、体育協会と連携し、町民の皆さんがスポーツに楽しみ、生涯にわたってスポーツを通じて心身の健康とスポーツの楽しさを体験できるよう、生涯スポーツの普及・振興に取り組んでいただきたい。</p>			

評価番号 6 1	事業名 特別支援教育の充実(巡回相談員の配置と活用)		
二次評価	B	今後の取り組みの方向性	継 続
<p>障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズに合わせ、町費教員や特別支援教育支援員を計画通りに配置し、適切な指導及び必要な支援を図っており、評価できる。</p> <p>また、特別支援教育の専門性向上を図るため、特別支援連携協議会や教育支援サポートチームによる情報交換会や研修会の実施、巡回相談員の派遣など、学校・家庭・関係専門機関・町教委・福祉部門が連携し、チームとして 特別支援教育の充実を図っており、高く評価できる。</p> <p>今後も特別な支援を必要とする児童生徒が将来的に自立し、社会生活に適応し、充実した生活を送ることができるよう特別支援教育の充実を図っていただきたい。</p>			
評価番号 6 3	事業名 学校規模の適正化		
二次評価	A	今後の取り組みの方向性	継 続
<p>あり方検討委員会の答申の内容を十分考慮し、児童生徒数の減少に伴い生じている教育課題を緩和・解消し、持続可能な望ましい学校教育の実現を図るため、再度学校のあり方検討会を設置し、海陽町学校再編基本計画が令和5年度中に策定されたことは、大いに評価できる。</p> <p>今後は、学校再編基本計画を保護者や住民の皆さんに理解をいただくために説明会はもちろん、町の広報紙やホームページに掲載し、ていねいな説明をしていただきたい。</p> <p>次の時代を担う子どもたちの「生きる力」を育む上で、よりよい教育環境の整備と学校教育の充実が図れるよう保護者や住民の皆さんに広く意見を求め、一人一人の意見を大切にして進めていただきたい。</p>			

評価番号 6 7	事業名 町奨学金貸与・おかえReターン海陽奨学金支援制度		
二次評価	C	今後の取り組みの方向性	継 続
<p>令和5年度の貸与者は7名、継続貸与者7名である。向学心に富み、経済的理由により修学が困難な生徒・学生に奨学金を貸与することにより、将来、地域の担い手の人材育成を図ることを目的とした本町の奨学金制度が実効性のあるものになっている。</p> <p>おかえReターン海陽奨学金支援制度の認定者（交付決定者）が現在14名いる。若者の地元就職の促進と産業人材の確保や定住促進に一定の効果が表れている。</p> <p>今後も成果目標が達成できるよう、このすばらしい制度をより広く周知するための方策を検討して、より多くの若者が本町へUターンできるよう引き続き努力していただきたい。</p>			

(3) 教育委員会会議の活動状況について

○教育委員会会議については、毎月1回、開催する定例会と、必要に応じて開催する臨時会において各委員とも高い関心と問題意識のもと、海陽町の教育に関する様々な案件に関して検討し、議決されています。また、教育委員からの情報提供や事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局の間で意見交換が活発に行われている様子が見られます。

○学校訪問については、年1回の町内の幼・小・中学校の訪問や運動会・体育祭等の学校行事への参加等により、児童生徒、教職員の様子を見たり、意見交換等を行っており、本町における学校教育の現状を把握する上で大変有意義であると思います。今後もより一層、学校との連携を密にし、教育活動の効果的な推進に尽力されることを期待します。

○様々な教育委員会活動についての情報公開は、住民の皆さんの理解を得たり、関心を持ってもらうためにとっても重要なことと考えますので、積極的な情報発信に努めていただきたいと思います。

(4) 総評

令和5年度の事務事業の一次評価（自己評価）は、海陽町第3期教育振興計画（令和3年度から令和7年度までの5年間）の目標及び令和5年度海陽町教育基本方針に基づいたものとなっており、着実かつ適切に執行されていると認められます。

また、今回実施した68の事務事業ごとに事業目的、事業内容、事業の実施状況、事業費、評価、今後の方針が評価シート一枚にまとめられており、事務事業の計画の進捗状況や成果、課題が十分に確認することができました。

今年度も昨年度に引き続き、一次評価を実施した68の事業の中から抽出した海陽町教育委員会主要施策等の14事業と教育委員会の活動状況について行いました。点検・評価を実施した14の事業や教育委員会の活動状況について、各担当から具体的で分かりやすい説明や質問に対しても適切な回答があり、施策について十分に理解することができるとともに施策の課題も具体的に見えてきました。各事業の成果指標の見直しも適切に実施できしており、事務事業がより客観的・効率的・効果的に執行されているかも確認できました。

各事業所管係による事業の達成度評価については、A、B、C、Dの4段階の一次評価（自己評価）のうち、Aが全体の約28%の19事業、Bが約65%の44事業、Cが約6%の4事業、Dが約1%の1事業という結果となっております。圧倒的にB評価が多いですが、B評価に満足することなく、なぜ、A評価にできなかった理由も考えて欲しいと思います。

今後の取り組みの方向性については、「拡充」、「継続」、「縮小」、「見直し」、「休廃止」の5段階の一次評価（自己評価）のうち、全体の約88%に当たる60事業が「継続」、拡充が約10%の7事業、「縮小」が0、「見直し」が1事業、「休廃止」は0という結果となっております。

「継続」とした事業については、事業の意義と目的を常に意識しつつ、創意工夫を重ねてさらに推進していただきたいと思います。「拡充」とした事業については、住民のニーズを的確に把握し、関係機関などとの連携も図りつつ実施するよう努めて欲しいと思います。「見直し」とした事業については、より効率的な実施手法を検討し、適切に進めてください。

今後も事務・事業の目的、必要性等を踏まえ、常に問題意識を持って事務・事業の遂行にあたっていただきたいと思います。特に財政の健全化が求められている中で、今後実施する事務・事業の優先度・緊急度や費用対効果なども勘案し、計画的、重点的な事業実施に努めていただきたいと思います。

令和6年7月19日

海陽町教育委員会外部評価委員会
評価委員 福井 千賀子
評価委員 皆津 隆一

海陽町教育委員会外部評価委員会設置要綱

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、海陽町教育委員会（以下「教育委員会」という。）に置く外部評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第 2 条 委員は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 教育委員会が実施した事務事業について、外部の視点から評価を行い、教育委員会に評価結果を報告すること。
- (2) その他教育委員会が必要と認めること。

(外部評価委員の選任)

第 3 条 委員は教育等に学識を有する者 2 人を教育委員会が選任する。

- 2 委員の任期は 2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は再任することができる。

(会議)

第 4 条 委員は教育委員会から事務事業の事後評価の報告が行われた場合、外部評価を行うものとする。

- 2 委員は必要があると認めたときは、委員以外の者を出席させて意見又は説明を聞くことができる。

(その他)

第 5 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が定める。

附則

この要綱は、令和元年 6 月 2 6 日から施行する。

